



GOOD
HOLDINGS

SUSTAINABILITY REPORT 2023

グッドホールディングスグループ サステナビリティレポート

Challenge To The Future

未来への
挑戦



Challenge To The Future

未 来 へ の 挑 戦

グッドホールディングスグループは、
創業以来、その時代の社会課題を解決することで進化してきました。

どんな時も、社会とその未来を見据え、解決すべき社会課題を前にして
素直に、真摯に取り組み、その度に自らも進化する。
これが1953年から続く私たちの事業の軌跡です。

そして70年の時を経た今、
未来の地球と、そこに生きる子どもたちのために、
環境ビジネスがこれまでにない重要な役割を担う時代となりました。

私たちの使命は、子どもたち、そのまた子どもたちが暮らす社会を
よりよいものにする環境ビジネスを創っていくこと。
これからも、社会課題に目を逸らすことなく未来への挑戦を続けてまいります。

CORPORATE MESSAGE

捉える、応える、超えていく

毎日グッドを創る。
少しずつ、創っていく。

その仕事がなんであろうと。どこであろうと。
はじめでも、おわりでも。

それは、人を、地域を、社会を、
ちょっとだけ前に、わずかだけ先に、
進ませるものであると信じたい。

捉えよう。
そこにある問題を、わたしたちにしかない目で。
応えよう。
わたしたちにしかできない方法で。
超えていこう。
今あるわたしたちの姿を。

編集方針

「サステナビリティレポート」は、お客様をはじめ、地域住民の方々や従業員とその家族、ステークホルダーのみならずグッドホールディングスグループがめざす姿や持続的な成長、企業価値向上の取り組みについて、より一層ご理解いただけるよう毎年発行しております。

2022年度は昨年度発足した長期ビジョンプロジェクトに続き、グループ全体で「Challenge to the Future (未来への挑戦)」をテーマに制作いたしました。

対象組織

グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄衛生、株式会社大協（報告書は各社のホームページでも公開しており、英語版についてはホームページのみの掲載としております）

対象期間

2022年度（2022年4月～2023年3月）※活動報告に一部2023年度を含む

発行月

2023年9月（次回：2024年9月予定）

対象分野

事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

参考ガイドライン

社会的責任に関する国際規格「ISO26000」／GRIガイドライン第4版／環境省「環境報告ガイドライン」

本レポートでは、ISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目をもとに、「コーポレート・ガバナンス（組織統治、公正な事業慣行）」、「環境における取り組み（環境）」、「従業員とともに（人権、労働慣行）」、「地域社会とともに（消費者課題、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展）」のとおり、編集しております。

CONTENTS

01-02	未来への挑戦
03-04	トップメッセージ
05-06	経営理念／行動指針 SDGsへの取り組み
07-08	グッドホールディングス グループ概要／沿革
09	財務情報・非財務情報
10	2022年度トピックス

11-16 常に挑戦と進化を続けるグッドホールディングスの新規事業
～ダイキョウクリーン 起業History～

【事業紹介】

17-22	株式会社リヴァックス
23-24	株式会社リリーフ
25-26	株式会社ダイキョウクリーン
27-30	株式会社大栄衛生 株式会社大協

【ESGの取り組み】

32-36	コーポレート・ガバナンス
37-40	環境における取り組み
41-45	従業員とともに
46-56	地域社会とともに ISO26000対照表



TOP MESSAGE

五方よしの経営理念のもと、 環境ビジネスへの挑戦を続けます

既存事業を深化させつつ、 常に進化をめざします

当社は1953年の創業以来、その時代の社会問題に向き合い、解決策を示すことで環境ビジネスを展開してまいりました。

2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響を少なからず受けましたが、その間、組織体制の見直しやDX化に取り組むことでアフターコロナに備えました。2022年度は、より強固となった組織基盤のもと、展示会への出展や採用活動など対外的な活動が再開されたことで、グループ6社がそれぞれに成果を上げることができました。また、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社リヴァックスのswell事業部、株式会社大協のGキャリア事業部など、2010年以降に取り組んだ新規事業においても、事業柱として太く成長した期間であったと思います。

私個人としては、2022年度よりグッドホールディングスグループの代表と、西宮市のごみ収集事業を行う株式会社大栄衛生の社長を兼務しております。一般廃棄物、産業廃棄物の収集事業という当グループの原点である事業そのものを再度見直し、変化させる期間にしたいと考えております。具体的には、新規事業と既存事業、またはグループ会社が互いに協業するなど、グループが持つリ

ソースをバランスよく組み立て、グループ会社だからこそこのポートフォリオを組めるよう、再編してまいります。

一方で、2022年末には株式会社リヴァックスにて労働災害やプラントの故障が相次ぎました。皆さまにご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。グループ全体として今般の事態を厳粛に受け止め、このような事態を二度と起こさないよう、対策をおこなっております。社員に対する安心安全を考えながら成長していくことが最も大切なことであり、安全対策についてもしっかりと見直していく所存です。

社会課題の解決を使命に 走り続けた70年

当グループは、1953年に「家庭ごみ収集事業」を開始し、1970年代には「産業廃棄物処理事業」に着手、さらには高齢化社会の課題解決を掲げた「おかたづけ事業」と「リユース事業」、飲食店の衛生を通じて地球環境保全に貢献する「グリストラップ清掃事業」、昨今の食品ロス問題の解決をめざす「食品リサイクル事業」と、現在5つの事業会社がホールディングス体制で社会課題解決型の環境ビジネスを展開しております。

コロナ禍においては、株式会社大協の環境ビジネスに特化した派遣事業「Gキャリア」が感染症流行の影響を受けた業界からの人材の受け皿となり、エッセンシャルワーカーの育成に貢献いたしました。また、株式会社リヴァックスでは、今期より廃棄物をエネルギーに変換する「バイオガス発電プラント」の試運転がスタートしており、かねてから当社がめざしている地域社会における資源循環への第一歩を踏み出したといえます。

私たちのビジネスの歴史を振り返ると、それはまさに「社会課題解決への挑戦」の歴史です。新規事業を立ち上げる際にいつもきっかけになるのは、「社会に求められているのに、他社でやっていない」ということです。一般的にはビジネスとして成り立たないと思えるようなことでも、世の中に求められているのならやろう。それをビジネスとして成功させて社会に貢献しよう。そんな挑戦を70年続けて、現在があるように思います。

P11からの巻頭特集では、株式会社ダイキョウクリーンの特集しております。ダイキョウクリーンは、株式会社大協の一事業部として10年前にスタートして以来、全国にお客様を増やし、関東に進出し全国に4拠点を展開する企業として成長しております。ゼロからの挑戦を続けた10年。決して早い成長とはいえないかもしれませんが、そこには「社会やお客様のニーズに応えていく」という思いの強さが常にありました。そしてそれこそが、当グループ最大の強みといえるのかもしれませんが。

サステナブル社会の実現をめざし、 これからも挑戦を続けます

これまでグッドホールディングスグループは、自社内のリソースを活用し、新規事業に取り組んでまいりましたが、2022年度からの新たな展開として、環境ビジネスをテーマとしたベンチャー企業への出資をスタートさせています。

今後も環境ビジネスに携わる企業への投資や協業を行うことで、より広い視野でサーキュラー・エコノミーを構築していく方針です。社外とつながることで生まれる新規事業やイノベーションにも期待し、次年度もSDGsやサステナブル社会の実現をめざして進化していきたいと考えています。

グッドホールディングス株式会社
代表取締役社長

赤澤健一

経営理念

「五方よし」の経営理念のもと 環境ビジネスを通して 未来の明るい社会を創ることをめざします。

私たちが掲げる経営理念「五方よし」は、近江商人が商売訓としていた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、事業に従事する社員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感できる「手代よし」、未来の担い手である次世代への責任と持続可能な社会の構築に取り組む「孫子よし」を加えたものです。

地域の方々や取引先、行政機関、社員やその家族といったさまざまなステークホルダーとの関係を大切にしながら、常に時代の先を見据えて未来に向かって進化する。「いま、社会にとって何が大切なのか」「未来の社会のためにどのような事業を行うべきか」を常に意識し、社会課題に応じていくことが私たちの使命です。

グッドホールディングスグループの
価値創造



行動指針

私たちの「行動指針」は、
進化し続ける姿勢を
育んでいます。

私たちが展開する環境ビジネスは社会の基盤を形成する重要なもの。地域社会との信頼関係を第一に、すべての従業員が凡事徹底を基本に確かな責任と誇りをもって仕事に取り組んでいます。だからこそ、その時代が必要としている新たなサービスを創り出すことが可能なのです。

1 責任とプライドを持って 仕事に取り組む

お客様から報酬をいただいている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果(成果)を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む

2 自主性と協調性の バランスをとる

「今、自分が何をすべきか自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる

3 前向きにチャレンジする

現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい(面白い)」という姿勢で取り組む

4 どんな状況にも適応する (適者生存≠弱肉強食)

変化に敏感であり、過去の成功や失敗、習慣に囚われず、様々な難しい状況でも適応する努力をし続ける

5 適正な利益を確保する

われわれが責任を負う人々の期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のためには適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

SDGsへの取り組み

私たちにとって
「事業を継続すること」が
SDGsへの貢献と考えます。

環境ビジネスに携わる私たちが見つめているのは社会の未来です。SDGs(持続可能な開発目標)をさらに明るく確かな未来をもたらすための過程と捉え、コーポレート・ガバナンス、人権・労働慣行、コミュニケーションの分野においてSDGsを踏まえた取り組みを行っています。



グッドホールディングスグループの取り組み

コーポレート・ガバナンス



環境における取り組み



従業員とともに



地域社会とともに



グッドホールディングスグループ概要

社会課題を捉え、応える力で、 未来の社会に貢献します。

私たちは、常にその時代の社会課題に向き合い、解決に尽力することで企業として進化をしてきました。

1960年に家庭ごみ収集事業からスタートした事業は、1970年代の産業廃棄物の不法投棄の社会問題化を受けて産業廃棄物処理事業に展開。2000年代には高齢化社会、食品ロスといった社会課題に取り組み、事業化を実現させてきました。

そして、2022年秋にはバイオガス発電プラントが竣工し、食品リサイクル事業がいよいよ再生可能エネルギー事業へと展開します。

私たちは「社会とともにある企業」として、これからも社会課題を捉え、応える力で未来の社会に貢献します。



GOOD HOLDINGS

グッドホールディングス 株式会社

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一
設立：1960年 資本金：96百万円
従業員数：11名

事業内容

グループ財務・経理・人事・労務・
広報、経営支援および総合戦略の策定

連結売上高 **4,888百万円** ※1

※1 単位未満切り捨て(特に断りのない場合、以降も同様)

グループ従業員数 **314名** ※2

※2 従業員数は常用雇用者(社会保険負担をしている者：従業員兼務役員除く)の数

株式会社 リヴァックス

産業廃棄物の収集運搬・中間処理
各種施設の清掃・管理

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代表者名：代表取締役社長 山本 英治
資本金：81百万円 従業員数：77名
売上高：2,267百万円

事業内容

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬
産業廃棄物の中間処理(破碎・乾燥)
飲料系商品のリサイクル
排水処理施設などの清掃・管理

株式会社 リリーフ

おかたづけサービス
リユースサービス

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名：代表取締役社長 赤澤 知宣
資本金：50百万円 従業員数：44名
売上高：592百万円

事業内容

おかたづけサービス
(遺品整理、生前整理、残置物撤去)
リユースサービス

株式会社 ダイキョウクリーン

グリストラップ清掃

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
代表者名：代表取締役社長 津田 政房
資本金：80百万円 従業員数：42名
売上高：502百万円

事業内容

グリストラップや排水管を含む
水回りの衛生維持管理サービス

株式会社 大栄衛生

西宮市のごみ収集事業

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一
資本金：10百万円 従業員数：63名
売上高：872百万円

事業内容

一般廃棄物の収集運搬(西宮市)
産業廃棄物の収集運搬

株式会社 大協

伊丹市のごみ収集事業
人材派遣事業

所在地：兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号
代表者名：代表取締役社長 平井 里美
資本金：6百万円 従業員数：77名
売上高：663百万円

事業内容

一般廃棄物の収集運搬(伊丹市)
産業廃棄物の収集運搬
人材派遣・人材紹介

グッドホールディングスグループの歩みと社会の変遷

グッドホールディングスグループの歩み

- 1953** 創業者が廃棄物回収業を創業
- 1968** 有限会社大栄衛生を設立
- 1974** 大栄サービス株式会社を設立(リヴァックス)
- 1976** 有限会社大協工業所を設立

- 1984** 処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に設置(リヴァックス)
- 1999** 同業他社との協調体制(アライアンス事業)構築(リヴァックス)

- 2002** CSR報告書(現サステナビリティレポート)発行スタート
- 2006** 産業廃棄物の破碎施設をリニューアル(リヴァックス)
大協工業所を株式会社に改組および大協に商号変更
計量器付き収集車両の導入(大栄衛生・大協)
- 2007** 有機性産業廃棄物の乾燥処理施設が完成(リヴァックス)
同時にバイオマス燃料化事業を開始
- 2008** 廃棄飲料系商品のリサイクル事業のため、リバースマネジメントセンターを新設(リヴァックス)
甲山農地プロジェクト(現こども農業塾)を開始
JICA研修の受入れを開始
関西大学第一中学校の施設見学受入れを開始(リヴァックス)
- 2009** 大栄サービスの社名をリヴァックスに変更

- 2010** グリストラップ清掃事業を開始(ダイキョウクリーン)
- 2011** おかたづけサービス事業を開始(リリーフ)
- 2013** 海外リユース事業を開始(リリーフ)
- 2014** 関東事業所を東京都足立区に開設(リリーフ)
swell事業を開始(リヴァックス)
バイオマスボイラーを新設(リヴァックス)
- 2015** **チャイルドドリームへの寄付を開始**
埼玉県三郷市に関東事業所を開設(リリーフ・ダイキョウクリーン)

- 2016** **ホールディングス体制へ移行**
五方よしの経営理念策定
リヴァックスホールディングスの社名をグッドホールディングスに変更
- 2017** グループとして東京都千代田区に東京オフィスを開業
さくらチーム発足(大栄衛生)
人材派遣・人材紹介事業(G career)を開始(大協)
- 2018** 愛知県名古屋市に名古屋事業所を開設(リリーフ)
人事制度見直し

- 2020** **フードバンクへの寄付を開始(リヴァックス)**
- 2022** 神奈川県横浜市に京浜事業所を開設(ダイキョウクリーン)
- 2023** 西宮バイオガス発電プラントが完成(リヴァックス)

1950 -

- 1960年代** 高度成長期
- 1970** 「廃棄物処理法」改正により、一般廃棄物と産業廃棄物という概念が誕生

1980 -

- 1980年代** バブル経済
- 1985頃~** 家庭ごみの排出量が急増し始める
- 1990** バブル崩壊
- 1995** 「容器包装リサイクル法」制定
- 1997** 「京都議定書」地球温暖化の原因となるCO₂などの削減率が定められる

2000 -

- 2000** 一人当たりの家庭ごみ(一般廃棄物)排出量が減少し始める
あらゆる廃棄物においてリデュース、リユース、リサイクルを主軸とした時代へ
- 2001** 「廃棄物処理法」改正により、廃棄物処理のマニフェスト制度がさらに強化
コンプライアンスの遵守が重要視される時代へ
- 2007** 「改正容器包装リサイクル法」完全施行により、さらに社会の「ごみの減量化」への意識が高まる

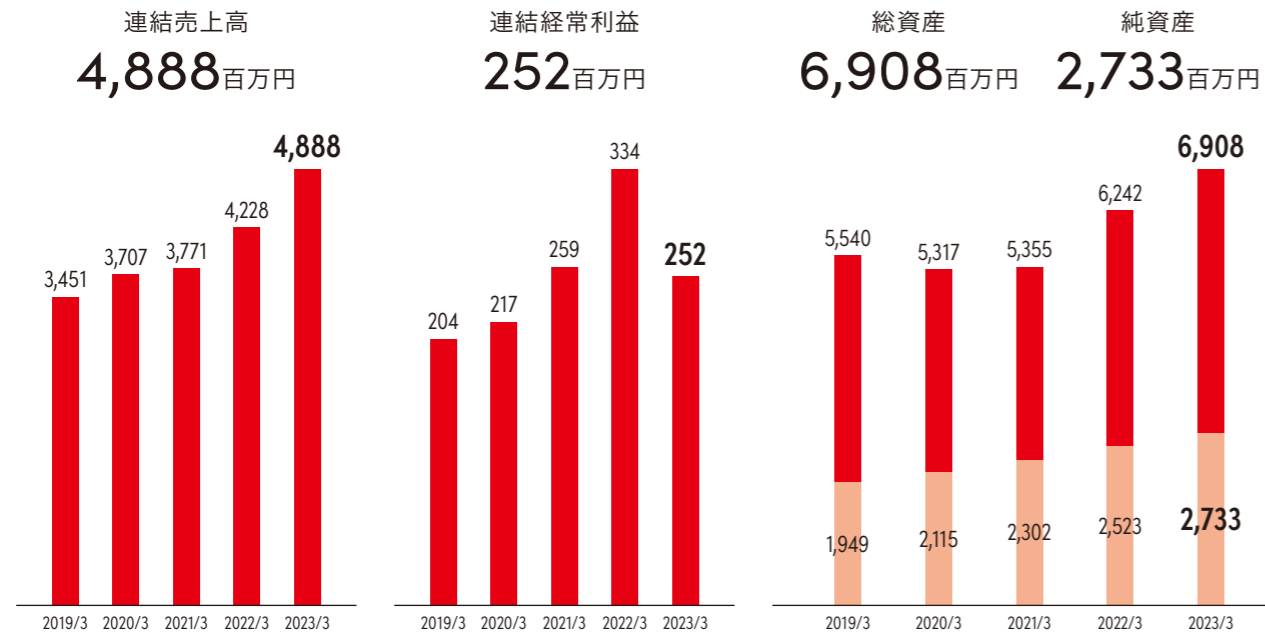
2010 -

- 2010** 「カンクン合意」にて、日本の温室効果ガス削減目標を「2020年度までに2005年度比で排出量を3.8%削減」とする
孤独死者数が急増し、社会問題化
- 2015** 「パリ協定」にて、日本の2030年度の温室効果ガスの排出を2013年度の水準から26%削減することを目標とする
SDGs(持続可能な開発目標)が策定される
- 2018** 食品ロスが社会問題に

2020 -

- 2020** 菅総理所信表明演説で「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を宣言
- 2021** 気候サミットにて日本の2030年度の温室効果ガス削減目標を「2013年度から46%削減」と宣言

財務情報

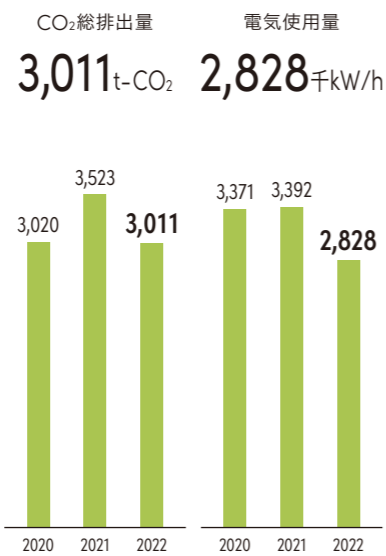


非財務情報

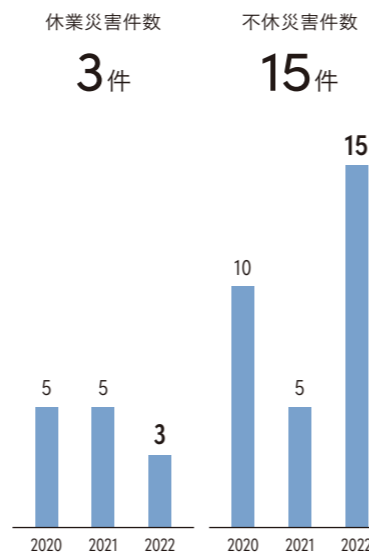
ダイバーシティ



環境



安全



リヴァックス
西宮バイオガス発電プラントが完成

阪神間で初の商用バイオガス発電プラントが完成し、竣工式を執り行いました。2023年2月から6月の試運転を経て、7月の売電を含めた本稼働時には年間14,000tの産業廃棄物を処理し、3,400メガワット時の発電を行う計画です。発電した電気はFITを利用し地域電力として活用します。またメタン発酵により発生する残さ(消化液)は脱水後に、堆肥の原料としてリサイクルします。



大阪市消防局と共同訓練を行いました

2022年7月13日、大阪市消防局と株式会社リヴァックスが共同で土砂災害時を想定した救助訓練を行いました。株式会社リヴァックスの保有する粉体専用マルチ吸引車を活用した土砂の吸引・排出によって迅速・安全に助け出す方法の検証を行いました。



図書寄贈を行いました

株式会社リヴァックスは食品ロスを削減するための教育活動の一環として、西宮市内の環境学習施設(3ヶ所)に、食育関連図書の寄付をしました。この取り組みは「環境学習都市にのみや・パートナーシッププログラム」の事業として認定されました。



セーリングチーム実業団全国大会出場

2022年7月に開催された関西実業団ヨット選手権で6連覇という快挙を成し遂げ、同年9月に広島県で開催された全日本実業団ヨット選手権大会に出場いたしました。



ストレスフリーカンパニーに認定されました

グッドホールディングス、リリーフ、ダイキョウクリーンの合同安全衛生委員会で毎年実施しているストレスチェックにおいて、2022年度の結果がストレスフリーカンパニーとして認定されました。



伊丹市社会福祉協議会より
感謝状を拝受しました

株式会社大協は伊丹市および社会福祉法人伊丹市社会福祉協議会が実施する「伊丹市高齢者地域見守り協定事業」の事業者として登録しており、日頃の社会福祉活動に対し伊丹市社会福祉協議会長から感謝状を拝受いたしました。



ダイキョウクリーン 京浜事業所が開設

2022年4月に株式会社ダイキョウクリーンが横浜に京浜事業所を開設しました。

常に挑戦と進化を続ける
グッドホールディングスの新規事業

ダイキョウクリーン 起業History



グッドホールディングスグループは、既存の事業を深化させつつ、常にその時代の社会課題や顧客ニーズに応えることで新規事業に挑戦し、進化を続けてきました。
株式会社ダイキョウクリーンは、2010年に株式会社大協の一事業部として「グリストラップ清掃事業」をスタートさせたのがはじまりです。関東進出を果たし、グループの一事業柱として成長を遂げた今、津田政房社長とダイキョウクリーンの歴史を振り返りました。

津田 政房

株式会社ダイキョウクリーン代表取締役社長。
1997年に大栄サービス株式会社（現 リヴァックス）に新卒入社。
1998年に有限会社大協工業所（現 大協）へ転籍。
2010年、同社にてグリストラップ事業を立ち上げる。
2017年より現職。

1 ニーズがあって、 他社がやっていないならやる

— 株式会社ダイキョウクリーンはグリストラップ清掃、ビルや施設の排水管・貯水槽などの清掃事業を行っていますが、事業スタートのきっかけは。

津田: あるとき、飲食店チェーンから「阪神間でグリストラップ清掃専門の業者がいなくて困っている」という相談があったんです。グリストラップとは、「油脂分離阻集器」のことで、業務用の厨房の汚水の中から野菜くずや残飯を金網状のバスケットで集め、油が下水に流出するのを防ぐ装置です。飲食店の業務用厨房に設置されており、定期的な清掃を怠ると配管設備が傷み、害虫が発生する原因になります。グリストラップ清掃には専門的な知識やノウハウが必要ですが、当時は設備清掃業者が付随的に請け負うケースがほとんどで、専門の清掃業者がありませんでした。「ニーズがあって他社がやっていないのならやろう」と、株式会社大協が引き受けたのがスタートです。

— 株式会社大協は、伊丹市で家庭ごみ収集事業を行う会社ですが、グリストラップ清掃の経験やノウハウはあったのでしょうか。

津田: 私には知識も経験もなく、「グリストラップってなんだ?」というところから始まりました。しかし調べるとおもしろいもので、グリストラップは飲食店ならどこにでもある。阪神間の飲食店を顧客とすれば「事業としての可能性は十分ある」と思いました。飲食店チェーンとの契約は「兵庫県限定で月10件」というものでしたが、いきなり1,000万円を超えるバキューム車を購入しました。グリストラップ清掃の知識や技術については、当時の社長に多少の経験がありましたので、作業実績を重ねる中で自社

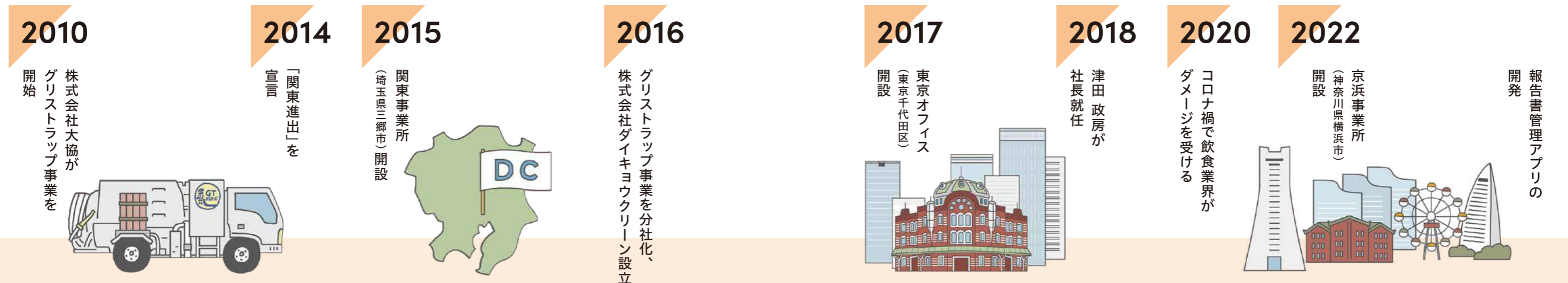


でのノウハウを積み上げていきました。

— 月10件の売上のために1,000万円超のバキューム車を?

津田: はい。大きな投資です。「バキューム車を買えば仕事はあるだろう」と思っていたのですが、すぐに間違いに気づきました。グリストラップの清掃は年に1、2回しかやらない作業だったんです。どれだけ仕事の数を集めないといけないのかと(笑)。どうしたものかと国道2号線を車で走りながら、道沿いの店の名前を片っ端から手帳に書いて営業リストを作ってみました。阪神間だけで事業を成り立たせるのはどう考えても難しい。兵庫県、和歌山県、滋賀県、奈良県にエリアを広げるしかないと考えました。しかし広いエリアを一件ずつ営業してまわるのは大変なこと、衛生的な意識が高いことなどから、飲食店チェーンにアプローチすることにしました。飲食店チェーンなら効率よく営業活動ができますし飲食店チェーンにとってもエリアごとに違う業者とやりとりするよりも、一度に複数エリアを請け負える業者に頼む方が効率的なはず。早速、広域エリアの許可を取りました。

ダイキョウクリーンの歩み



2 「広域エリア対応」を強みに 事業を展開

— グリストラップ清掃の作業頻度が少なかったのは誤算でしたが、そのおかげでエリアを広げて飲食店チェーンにアプローチすることを思いついたんですね。

津田：しかし、そこでまた新たな問題が出てきます。飲食店チェーンへのアプローチとなると、電話で営業しても簡単には会っていただけない。「どうやってお客様に会えるのだろう」「どうしたら名刺をいただけるのか」と悩みながら、社内会議を繰り返しました。私の経験の中に答えがない。でもやらねばならない。この時期が一番苦しかったと思います。そんな中でふと周りを見ると、グループ会社の営業や上司の顔がありました。仲間や上司にアドバイスをもらうことで、少しずつですが確実に前に進み始めました。グループ会社だからこそできたプレイクスルーだったと思います。しかしその頃は、まだ勝ちパターンが見えない状況でしたね。

— 2020年3月期には黒字転換を果たしました。

津田：お客様への営業が実を結び、作業店舗が増えてスケールメリットが出てきたこと、現場力が飛躍的に上がったことなどで、社内でも「今年黒字イケるぞ!」という大きなうねりがありました。なんとなく各部署がイメージしていた黒字化への道筋が、徐々にリアルに数字となって表れていったんです。一度だけで落とすのはよくないので、翌年も経費などの取捨選択をし、黒字化を達成することが

できました。

— 「勝ちパターン」が見えてきたのは、その頃ですか。

津田：そうですね。「広域エリアに対応できる」ことが当社の最大の強みとなり、飲食店チェーンなどのニーズに多少お応えすることができるようになったんだろうと思います。でもまだ危なっかしい感じでした。そんな中、ちょうどお客様から、「排水管清掃もできないか?」というお声がかかったんです。グリストラップ清掃も排水管清掃もどちらも専門性が高い仕事ということもあり、両方でできればお客様にとっては窓口がひとつで済みますし、私たちにとってもお客様との接点も増やせる。そもそも創業直後に高压洗浄車は1台あったので、すぐ商品として提案を始めました。排水管清掃を始めたことで、飲食店以外の業種との取引も増えていきました。経験値が上がることで営業部門も業務部門も管理部門もスキルを身につけ、この時期くらいから会社としての対応力が高まっていったと思います。



3 関東進出を果たし、 6年で4拠点を展開

— 2015年には関東進出も果たしています。

津田：飲食店チェーンの本社は関東が多く、営業に伺うと「関東はできないの?」と聞かれることがよくあったんです。早い段階から「いつか東京に出るぞ」と思っていたところ、すでに関西で取引のあった全国展開の飲食店チェーンの担当者様から関東での発注の打診をいただくことができました。なので、黒字化が見えていたタイミングでしたが、いきなり「関東に行きます」と宣言しました。



ようやくの黒字化なのに、関東に行ってまた赤字にするかと社内では大反対にありました(笑)。

しかし、私には勝算がありました。当時の大協の社長に「今、関東に進出すれば、最初から年間数千万円ほどの受注ができる目算があります。仕事があれば認めてくれますよね?」と話をし、3ヶ月後には関東進出が決まりました。すぐに関東1都5県の許可を取り、一気に事が動きだしました。

— 今年度は関東で3つめの拠点、京浜事業所をオープンしましたね。

津田：京浜事業所のある横浜エリアの仕事が増えており、処理施設が近いこともあってコロナ前から計画していました。2015年の関東進出以来、関東のスタッフは関西とは比べ物にならない大きな市場を前に「まずは関西と並ぶ売り上げをめざし、そして追い越そう」という想いで走ってきました。コロナ禍では飲食店が大きな影響を受けて作業件数が減るという苦しい時期もありましたが、コロナ前に地道に行っていた新規顧客開拓がコロナ禍においても順調に実を結び、予定を延期することなく京浜事業所を開設することができました。

4 敷かれたレールは、 ぶっこわす

— 津田社長自身は、どんなキャリアを歩んできたのですか。

津田：私は大学を卒業後、新卒で大栄サービス株式会社(現リヴァックス)に入社し、翌年、有限会社大協工業所(現大協)へ転職しました。産業廃棄物処理の営業が仕事でしたが、若手ながら提案営業が得意で、作業者に怒られるぐらい仕事を取りまくってました。仕事は順風満帆でしたが少し飽きていたときに、「60歳になっても、ここで営業マンをしているつもりか」とグループ代表の赤澤健一に言われたんです。確かに、このままいけば役職が上がるのは間違いないけれど、先が見えているなと思いました。続けて「関東への進出を検討している」と話し出したので、私は「そうなんだ、いつ行くのかな」と思って聞いていたら、「関東進出のマーケティングを担当するように」と指示を受けたんです。びっくりしますよね。当時、私はまだ29歳で、土地勘も人脈もありません。妻には「何か会社で悪いことをして関西におられなくなったのか」と心配されました(笑)。しかし、このことは私の仕事人生にとって大きな経験になりました。会社という井戸から大海に出たんです。今の私は、そこから始まっていると思います。

右も左もわからない東京へ家族とともに引っ越して、ひとりで同業者を回り、どのような事業の展開が良いかを検

5 成功体験に囚われず、 新しいアイデアで勝負

— 株式会社ダイキョウクリーンはこの十数年で、グループの事業の柱として成長を遂げました。今後の展開はどのようなのでしょうか。

津田：グッドホールディングスグループでも株式会社ダイキョウクリーンとしても2030年への大きな目標があります。企業として成長させていくには、組織基盤を強固しておく必要があります。社員数や拠点も増えるので、部署や拠点を超えてのコミュニケーションがスムーズになるよう、仕組みづくりを始めているところです。

これまでの当社の成長は、社員個人の情熱や能力によることも大きかったのですが、それでは限界があります。ITを活用した業務の効率化や人材研修などで、個々が持つ能力を存分に活かせる環境を整えていきたいと考えています。

また、近年では大手企業を中心にSDGsへの取り組みが一般的になっており、私たちの業界においても「廃棄物はどうなっているか」といったことを気にされるクライアントが増えています。だからこそ、当社でも作業ノウハウだけではなく、リユースやリサイクルについても勉強せねばなりません。循環社会をめざしているというグループ会社

討する日々が始まりました。同業者の方々からすると関西から訳の分からない若者が突然やってきて話を聞かせてくれと言い出すので、きっと迷惑だったと思います。しかし、何件も回って話を聞くうちに、多くの同業者は後継者がいないため事業の存続の問題を抱えていることがわかりました。そこで、「ハッピーリタイア」という言葉をキーワードに「僕と話をしたらこういう未来が待っている」という提案書を作って持って行きました。そうしたら、ある経営者が興味を持ってくれて事業を譲り受けることが決まったんです。

関東進出というミッションは果たしたものの、その後の経営はうまくいきませんでした。結果的には黒字化に時間がかかり、会社を譲渡して関東を撤退することになりました。34歳のときでした。そのときの辛さといったらなかったです。お客様に説明して回るのは裏切られるようで辛かったですし、スタッフにも「いつか東京に帰ってこよう」と約束をして、関西に戻りました。しかし、その経験で得た経営における反省点や東京の土地勘が、後に株式会社ダイキョウクリーンで大いに役立つことになりました。人生の経験はすべてつながっています。

関西に帰ってからは、しばらく何もしたくなくて「もう仕事はしません」と会社に宣言して、本当に半年ぐらい何もしませんでした。何もしないのにも飽きてきた頃に、グリストラップ清掃の話が出てきたんです。

の姿勢もあり、SDGsへの関心が高い企業に今後も選ばれていくと思います。

時代に合わせて顧客ニーズもどんどん高度化していくでしょう。コロナ後の顧客ニーズを捉えながら真に求められているサービスを提供できるよう進化させていきたいと考えています。例えば、これまでに当社は業界トップレベルの作業件数、作業実績を積み上げておりますが、その情報はすべて管理部門が報告書としてまとめています。これらの蓄積した膨大な作業情報をデータに落とし、お客様一社一社にフィットさせて、選ばれ続ける企業になれるように日々努力をしていきます。常に社会にアンテナを張り、新しいアイデアで勝負する企業で在りたいと思っています。



関西・関東 全4拠点 スタッフインタビュー

新規事業からグループ会社の事業柱として急成長を遂げた株式会社ダイキョウクリーン。社員から見たダイキョウクリーンとはどんな会社なのでしょうか。関西オフィス、東京オフィス、関東事業所、京浜事業所で働く社員にインタビューしました。

関西 オフィス

管理課
田辺 領



会社は次なるフェーズに蓄積したリソースを新事業に活かすプロジェクトが始動

私が入社したのは、大協がグリストラップ事業をスタートさせた年でした。当時の私は、仕事をしながら大学時代に所属していたヨット部で指導もしており、仕事とヨットの両立に悩んでいました。同じ大学のヨット部OBである赤澤代表に相談したところ、大協なら両立できるということで転職を決めました。会社にヨット部まで作ってもらえて自分にとって理想的な日常が手に入りました。

仕事も新規事業ということで、展示会に出たり飛び込みで新規営業をしたり、毎日が新鮮で楽しかったです。黒字達成した時は本当に嬉しかったですね。7年かかりましたが、そこをめざしてみんながむしゃらに頑張ってきたので。

入社して3年目で管理部に異動しました。管理部は、契約書やマニフェストなどの書類作成や売上管理、各部署の仕事の効率化、既存顧客とのやりとりなどの業務を行います。創業から現在までの会社の情報が集約、蓄積されているので、私はこの会社については誰よりも知っていると自負しています。

ここ数年、会社は次なるフェーズに移行したと感じています。今期は、報告書作成アプリの開発など、新しいプロジェクトが始まりました。今後は、自社の持つリソースを新規事業にどう活かしていくのか。会社の新たな展開を担っていきたくと思っています。

営業課
成相 成之



会社が急成長する中、若手役職者を中心に「組織づくり」がスタート

私は、提案営業の仕事をしています。前職は、大手の靴小売店の店長として働いていました。前職では「お客様が求めるものを選びやすいようにする」という視点で仕事をしていましたが、当社の営業は「クライアントのお悩み事を改善して初めてお金をいただける」仕事です。そのためにはしっかりお客様にヒアリングをして、解決策を提案できる必要があります。入社当初は上司から「(解決策を)考えろ」と言われすぎて脳みそが痛くなるようなこともありました。そのぶん、仕事を通して成長できた実感があります。また、仕事に満足してくださったお客様から紹介をいただくことも増え、「やればやるほど仕事が増える」という状況にやりがいを感じています。

当社は新規事業として急成長を遂げましたが、会社の規模が大きくなるとともに個人の能力ではカバーできない部分も出てきています。これからはさまざまな得意分野を持つ人が集まるチームとして、一人ひとりが持ち味を活かせるような組織づくりや教育体制が必要です。

今期は、営業、業務、管理の各部署から30代の役職者が集まり課題を話し合う月1回の定例会がスタートしました。30代はちょうど真ん中の世代で上からも下からも社員の声が集まりやすいので、社員の声を組織づくりに活かし、よりよい会社づくりを若手みんなが責任を持ってやっていこうと考えています。

Nishinomiya-city,
Hyogo

京浜 事業所

業務課
山本 拓也



組織やマネジメントについても勉強していきたい

私が関西から関東に異動になったのは、関東進出をして4年目です。「関西が一番楽しい」と思っていたのですが、関東には現場作業のベテランが少ないということで、使命感に駆られてやって来ました。関東に来てからは、大きな市場を前に「どこまでいけるんだろう」と会社と自分の成長にワクワクしなかったです。以来、「頑張れば認められ、さらに上をめざす」ということを繰り返してきたと思います。

昨年、京浜事業所が開設し、所長に就任しました。役職についてから組織やマネジメントについても勉強したいと思うようになりました。関東のメンバーは出身地も個性も多様です。これから会社が大きくなっていく中で、みんながなんでも言い合える風通しのよい組織にするには、組織の土台づくりに着手する必要があります。私は、使命感にスイッチが入るとことんやるタイプ。会社を上げての研修や若手の勉強会も始まったので、まだまだ上をめざしていきたいです。

東京 オフィス

営業課
苫米地 紘史



お客様の視点に立った提案営業で目標達成をめざす

コロナ禍の2021年11月に中途入社しました。前職では飲食店で店長を8年経験した後、外資系の大手食材卸業の営業をしていました。ダイキョウクリーンに入社したのは、グリストラップについて知識があったことと、せつかく仕事をするのだからこれから大きく成長する会社で自分も一緒に成長していきたいと思ったからです。

「この会社はすごい」と思うのは、仕事のスピード感と社員に与えられる裁量が大きいところです。営業マンとして、お客様の視点で求められるサービスを追求できるという点では、とても気持ちよく仕事ができます。

2030年には25億という売り上げ目標があります。簡単な数字ではないけれど、当社は飲食店がダメージを受けたコロナ禍でも数字を伸ばしており、地道な提案営業の底力を感じます。目標達成のためには新規顧客を開拓する必要がありますので、上司と話をしながら、お客様にとって良い未来が描けるような提案営業をしていきたいと思っています。

Yokohama-city, Kanagawa

関東 事業所

業務課
坂田 謙二



「全員がほんまに働きやすい会社」をめざして

会社が関東に進出するタイミングで関西からやって来て、あっという間に8年経ちました。これまで関西に追いつけ、追い越せで夢中で走ってききましたが、組織の規模も大きくなり関西と並ぶ実績が出せるようになりました。

私の仕事は、営業が受注してきた業務と現場の調整役です。お客様や営業の要望に応じて、できるだけ作業がスムーズに数多くこなせるようにスケジュールを組みますが、最近現場から「まだいけますよ!」とってくれることも多く、いいチームになったと感じています。

この仕事はチーム力が大事ですが、当社はスタッフの勤務時間がバラバラで、顔を合わせて話し合う機会が多くはとれません。社員同士が意識を共有する仕組みづくりが大事だと考え、作業のペアを替えている人々と話す機会を増やすなど、自然とコミュニケーションが取れるよう体制を見直しています。ここから先は、「全員がほんまに働きやすい会社」をめざしていきたいですね。

Misato-city, Saitama

Chiyoda-city, Tokyo



株式会社リヴァックス

産業廃棄物の収集運搬・中間処理 | 各種施設の清掃・管理



会社概要
 資本金: 81百万円
 従業員: 77名

代表取締役社長
山本 英治

「循環型社会」の実現をめざして 産業廃棄物の可能性を追求する

株式会社リヴァックスは、「産業廃棄物のリサイクルを構築すること」で資源循環化をめざしています。廃棄物を削減することは社会の使命です。何もしなければごみになる廃棄物を、創意工夫と技術力で再利用やリサイクルに導くことができます。リサイクルが難しい難処理廃棄物においても諦めることなく挑戦し、社会に資源として還元したいと考えています。また、法令遵守と透明性を重視した経営を通じて、ステークホルダーの方々の信頼に応え、より質の高いリサイクルフローを時代に先駆けて創出することを使命として事業を行なっております。

2015年にスタートしたswell事業も、清掃の現場だけでなく災害救助の現場など、さまざまなシーンでご相談をいただき、これまでの取り組みが結実した一年でした。

一方で、年末には労働災害やプラントの故障が相次ぎました。みなさまにご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びし、このような事態を二度と起こさぬよう、経営層が率先して対策に取り組んでまいり所存です。

2023年7月には「西宮バイオガス発電プラント」が本格稼働いたしました。食品系の廃棄物から電気を創り、残った残渣を肥料として資源循環させる地域のモデルとなるよう、尽力してまいります。

リヴァックスの事業

産業廃棄物の総合リサイクル事業

「有機性廃棄物のバイオマス資源化事業」「食品リサイクル事業」「アライアンスネットワーク事業」、そして今期から新たに「再生可能エネルギー事業」を加えた4つの事業で、あらゆる産業廃棄物のリサイクルと資源循環化に取り組んでおります。

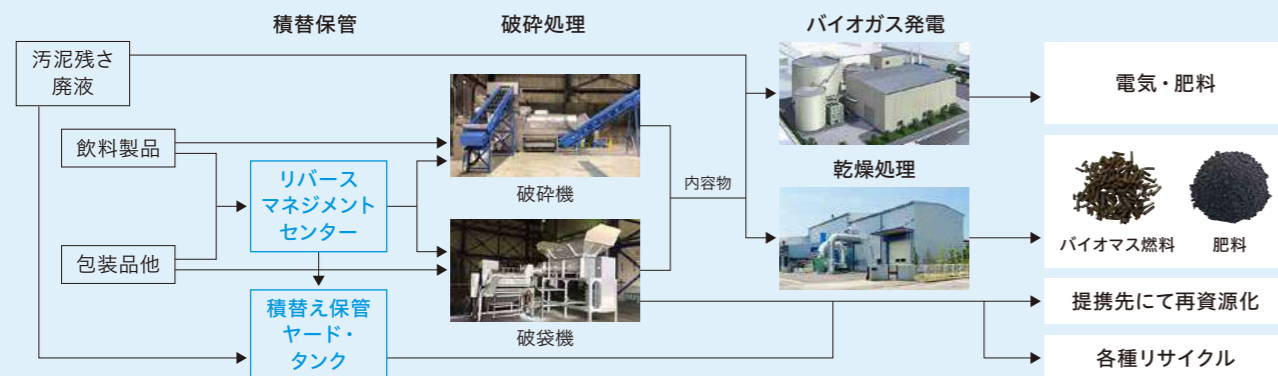
有機性廃棄物のバイオマス資源化事業

事業所から排出される活性汚泥や動植物性残さなどの有機性廃棄物については、自社プラントで乾燥処理を行い、バイオマス燃料や肥料といったバイオマス資源へと100%リサイクルを実現しています。

二酸化炭素排出を大幅削減するバイオマスボイラー

2016年よりリサイクル施設にバイオマス燃料を導入、カーボンニュートラルなエネルギー利用に転換しております。従来の都市ガスからバイオマス燃料にすることで、導入前より年間二酸化炭素排出量を62%削減することができました。

リヴァックスのリサイクルシステム



食品リサイクル事業

期限切れや製造ロスによって生じた飲料製品や梱包された食品系産業廃棄物を、破砕処理と乾燥処理によりバイオマス資源へとリサイクルします。飲料系廃棄商品は、容器と内容物の100%リサイクルを実現しています。RMC (リバースマネジメントセンター) では製品状態の廃棄物を安全に保管することができ、大量の廃棄物にも対応しています。

再生可能エネルギー事業

食品ロス等から再生可能エネルギーを創る、京阪神エリアで最大級の「西宮バイオガス発電プラント」が2023年1月に竣工しました。食品工場から排出される食品廃棄物はほとんどが飼料化や堆肥化によって再利用されていますが、近年では、CO₂削減や再生可能エネルギー利用としての需要の増加等の観点から食品廃棄物のバイオガス化が注目されています。リヴァックスでは、産業廃棄物である排水処理汚泥や、食品残さを原料にバイオガス発電を行い、発電した電気はFITを利用し売電を行います。

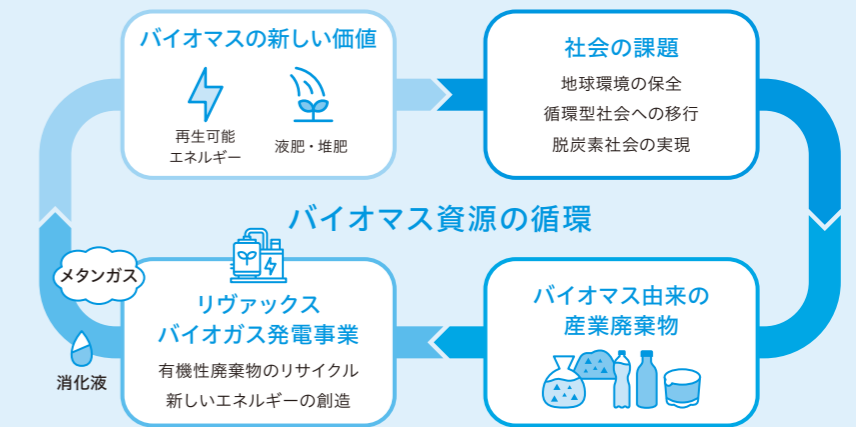


バイオガス発電とは

バイオガス発電とは、食品由来の廃棄物等を原料として、メタン発酵を行い、発生したバイオガスを燃料にバイオガス専焼発電機で発電する方法で、CO₂を発生させないカーボンニュートラルのクリーンな発電方法として注目されています。農地や都市から発生する産業廃棄物から再生可能エネルギーを創造することで循環型社会に貢献します。

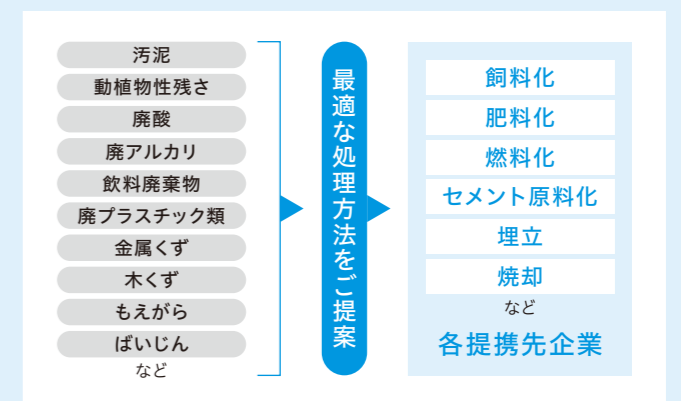
西宮バイオガス発電プラントの効果

- 再生可能エネルギーを供給することで、同等電力量を化石燃料で生み出したときに比べ、年間1,800トンのCO₂排出量(温室効果ガス)が削減できます。
- 西宮市、阪神エリアを中心とした食品由来の廃棄物をエネルギー源として活用し、約1,000世帯分の再エネルギーを創ります。



アライアンスネットワーク事業

産業廃棄物は業者によって扱う廃棄物が変わりますが、当社では長年培ってきたノウハウと提携業者等のネットワークを担って、薬品、廃材などあらゆる廃棄物の処理・リサイクルのニーズにワンストップで対応しております。



設備清掃事業

工場内インフラに特化したswell事業

swell事業は、「廃棄物処理だけでなく工場の清掃までトータルに依頼したい」という顧客ニーズから生まれた事業です。工場の排水処理施設や配管、タンクといった工場内設備に特化した清掃サービスを提供しています。顧客ニーズの中でも「特に技術的に難しく未だ実現されていない課題」に対して高機能的な吸引車と洗浄車の技術力でお応えすること、そして顧客の現場に合ったより良い清掃サービスを企画提案し、「コスト面、効率面での改善に貢献すること」を強みに事業展開しています。技術力と提案力で、工場の環境インフラの機能維持に貢献します。

超強力吸引車であらゆる清掃を可能に

国内最大級の超強力吸引車など特殊車両を保有しており、その圧倒的な性能で清掃作業時間の短縮や作業内容の改善を実現しています。「深い地下からの吸引」「レンガ屑など大きな塊の吸引」などこれまで不可能であった作業が可能になり、あらゆる現場のニーズにお応えします。



マルチ吸引車で低コスト・短納期を実現

マルチ吸引車は、粉体専用の特殊車両です。これまで複数台で対応していた、粉体の「吸引・圧送」「容器詰め」「粉体輸送」といった3つの作業を車両一台で行うことができる、まさに一台三役の車両です。吸引した粉体は再利用や破棄も可能で、作業の手間と時間を大きく削減します。



「提案×高いサービス品質×法令遵守」で安心のサポートシステムを構築

1 提案

顧客（製造工場・プラント工場・排水系作業現場）に低コスト・工程短縮等を提案

2 作業

他では困難な作業（高揚程・高比重）を含め、排水処理施設や配管、側溝などの堆積物の清掃を吸引車と高圧洗浄車でサポート（設備の機能回復）

3 アフターサポート

清掃時に回収した産業廃棄物処理を適正に行い、法令に基づいた産業廃棄物管理表（マニフェスト）の返却、次回作業の提案

鹿島出張所にて発生した設備清掃作業中の労働災害について

2022年12月9日、取引先工場施設内部での作業中に壁面に付着していた堆積物（鉄鉱石の粉じん塊）の崩落が起こり、弊社の手配した作業員が下敷きとなる死亡災害を起こしてしまいました。お亡くなりになられた方並びにご遺族様に心よりお詫び申し上げます。

弊社としては、日常的に繰り返される作業の中で十分な現場状況の把握がないままでの作業受領、作業者に頼る安全対策・作業管理となっていたことが災害の原因であったと考え、深く反省しております。

このような事態を二度と起こさぬよう、作業受領する上での十分な事前状況把握、リスク予見、安全対策の充実を行い、施工に臨みます。また安全管理の力量がある者を現場に確実に配置し、刻々と変わる状況に対応します。そして経営層が率先してこれらの仕組みの徹底や従業員教育を推し進め、安全の実現に取り組んでまいります。

株式会社リヴァックス 代表取締役社長

山本英治

取締役安全推進室長

小倉浩二

環境負荷低減の取り組み

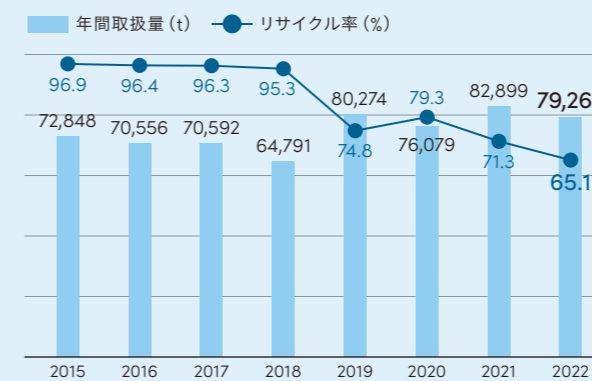
産業廃棄物のリサイクル率

より質の高いリサイクルをめざしています

2022年度のリサイクル率は65.1%でした。引き続き、お客様のリサイクルニーズへの対応、循環型社会の実現、埋め立て処分地の延命に貢献してまいります。

※リサイクル率は年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表します。※2018年度まではサーマルリサイクル（焼却）をリサイクル扱いとしていましたが、2019年度よりリサイクルカウントから除外しています。

リヴァックスの産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率



リヴァックスの対応可能な廃棄物処理

汚泥・残渣・廃液の乾燥処理	阪神間最大級のリサイクルプラント	▶ 100t/日
	安定した稼働実績	▶ 36,000t/年
食品などの容器包装の破碎処理	1日の処理量	▶ 43t/日(内容量含む)
	多種類の許可 ・廃プラスチック類 ・金属くず ・ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず	▶ 3種
廃棄飲料の処理	飲料処理実績 日本最大クラス	▶ 8,000t/年
	保有容量	▶ 585m ³ 食品リサイクル法に対応

処理センターのエネルギー使用量

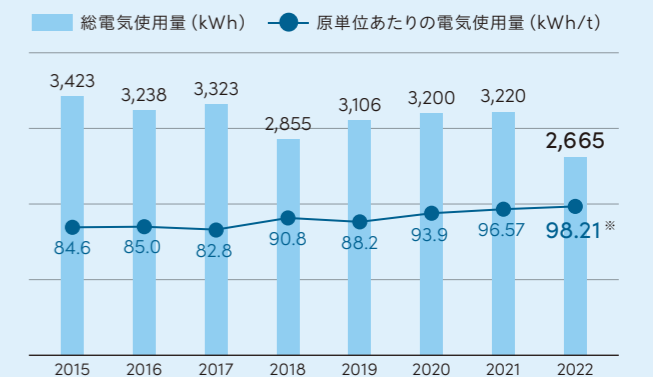
省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター（破碎・乾燥・メタン発酵施設）では、電気・都市ガスのエネルギーを使用しています。

2022年11月よりメタン発酵施設の試運転を開始いたしましたが、同年12月に発生した乾燥プラントの故障により2022年度の電気使用量は2,665,857kWhと減少する結果となりました。都市ガス使用量は90,428m³と増加しています。

今後もプラント安定稼働を維持しながらエネルギーの削減に努めてまいります。

処理センターの電気使用量



※原単位当たりの電気使用量にメタン発酵施設の数値は含まれておりません。

処理センターの都市ガス使用量 (m³)



悪臭防止対策

各種対策で、規制値を厳守しています

破碎・積替保管棟には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置、汚泥や動植物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付け、廃棄物の搬入出以外に閉鎖しています。乾燥施設から発生する高濃度臭気はバイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭を行い、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置しています。西宮市との環境保全協定に基づく臭気測定の結果は、2022年度もすべて規制値内でした。(P22参照)

水質汚濁防止対策

定期的に水質を分析、適正管理しています

廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を排水処理施設で処理した後に下水道へ放流しています。連続監視式のpH計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。法律より厳しい自主基準値を設定し、月1回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然防止に努めています。(P22参照)

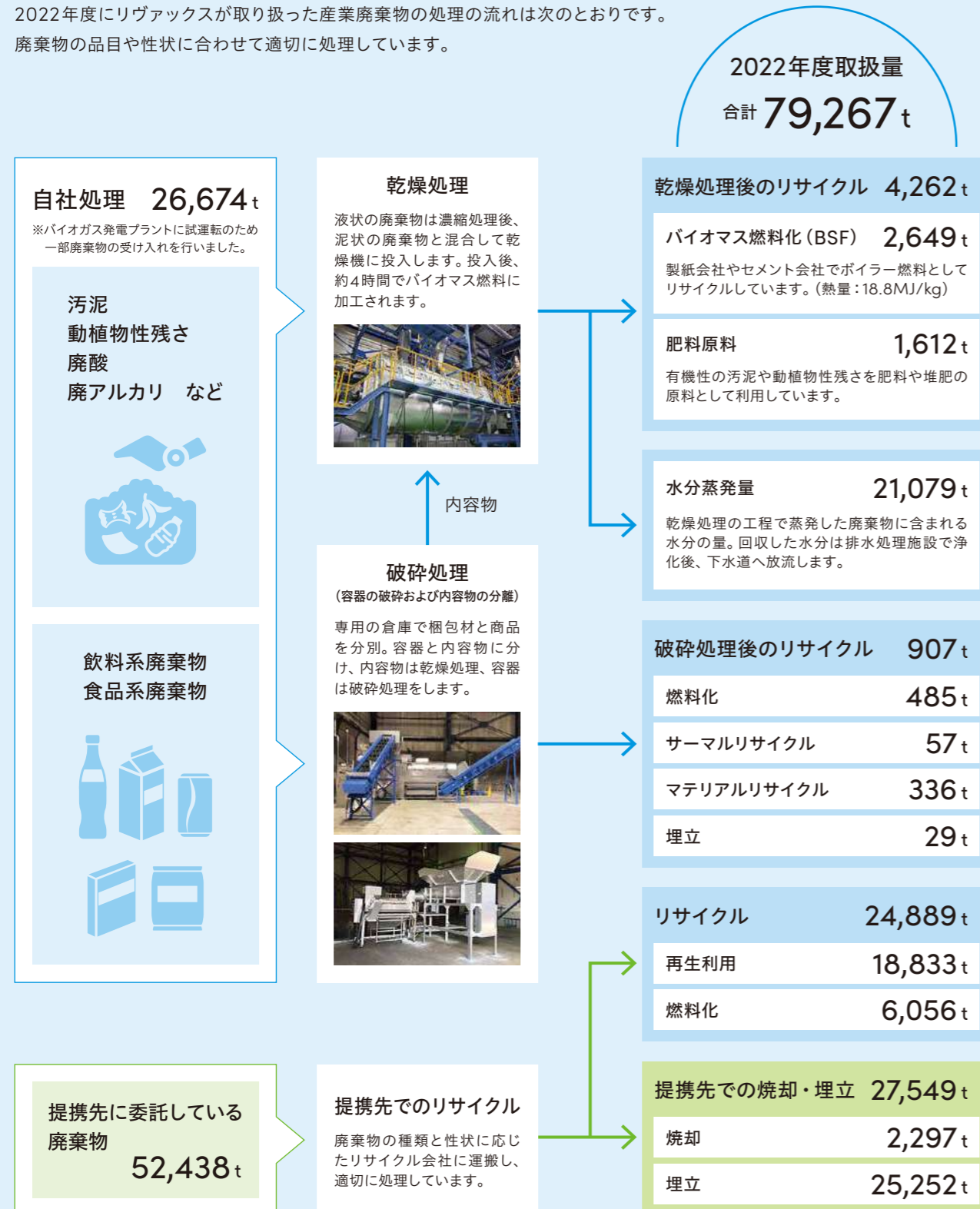
廃棄物の漏洩・流出防止対策

漏洩・流出防止を徹底しています

リバースマネジメントセンターでは、容器入り廃棄飲料の荷崩れや開梱作業などで飲料がこぼれた場合でも漏洩しないよう、倉庫外周に側溝および8m³の溜め枘を設けています。さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には漏洩防止のためゴムパッキン付き水密コンテナを使用しています。

産業廃棄物処理フロー

2022年度にリヴァックスが取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次のとおりです。
廃棄物の品目や性状に合わせて適切に処理しています。



環境測定結果

臭気測定結果 (2022年10月21日実施)

悪臭物質名	規制基準	単位	東側	西側	北側	南側
アンモニア	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
メチルメルカプタン	0.002	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化水素	0.02	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化メチル	0.01	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリメチルアミン	0.005	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
アセトアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
プロピオンアルデヒド	0.05	ppm	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ノルマルブチルアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソブチルアルデヒド	0.02	ppm	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルパレアルデヒド	0.009	ppm	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソパレアルデヒド	0.003	ppm	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
イソブタノール	0.9	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
酢酸エチル	3	ppm	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
メチルイソブチルケトン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
トルエン	10	ppm	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
スチレン	0.4	ppm	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1	ppm	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
プロピオン酸	0.03	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001	ppm	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
臭気濃度 (敷地境界)	30	—	<10	<10	<10	<10

大気汚染物質測定結果 (2022年10月21日、2022年3月13日実施)

測定項目	規制基準		単位	1回目	2回目
	排出基準	時間あたり排出量			
窒素酸化物 (NOx)	350	0.53	ppm	52	59
	—	8.5	mg/m ³	0.31	0.35
	—	—	t	5.1	5.7
硫化酸化物 (SOx)	—	—	ppm	<1	<1
	—	1.58	mg/m ³	<0.01	0.00741
	—	0.38	mg/m ³	<0.01	<0.01
ばいじん	—	0.2	g/m ³	<0.001	<0.001

重金属などの水質検査結果 (2022年5月26日実施)

測定項目	単位	規制基準	本社	サテライト
水温	℃	45以下	23.8	21.7
pH	—	5.0~9.0	7.4	7.0
カドミウム	mg/l	0.03以下	<0.003	<0.003
シアン	mg/l	0.3以下	<0.1	<0.1
鉛	mg/l	0.1以下	0.02	<0.01
六価クロム	mg/l	0.1以下	<0.02	<0.02
ひ素	mg/l	0.05以下	<0.01	<0.01
総水銀	mg/l	0.005以下	<0.0005	<0.0005
総クロム	mg/l	2以下	<0.02	<0.02
銅	mg/l	3以下	<0.1	<0.1
亜鉛	mg/l	2以下	0.22	0.18
溶解性鉄	mg/l	10以下	1	1
溶解性マンガン	mg/l	10以下	<0.1	0.7

水質測定結果

測定項目	規制基準	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水温	—	22	21	25	32	32	31	25	22	33	21	38	34
pH	5.5~8.6	7.6	7.6	7.3	7.9	7.8	8.1	8.5	7.8	8.3	8.4	8.4	7.9
BOD	500mg/l以下	3.2	1.2	1.4	50	1.6	1.3	16	1.9	※	422	3.0	2.0
SS	300mg/l以下	<1	1	2	10	<1	<1	14	1	※	<1	<1	<1

※乾燥プラント停止により排水なし



株式会社リリーフ

おかたづけサービス リユースサービス

「おかたづけ」と「リユース」で「不用品をごみにしない」ビジネスを展開

株式会社リリーフは2011年、グループ理念（五方よし）のもと、社員の新しい活躍の場として「社会課題にビジネスで取り組む企業」として創業しました。遺品・生前整理、孤独死・ゴミ屋敷原状回復、不用品撤去などを行う「おかたづけ事業」と、おかたづけ事業での回収および、提携先から引き取った不用品を海外でリユース・リサイクルを行う「リユース事業」を展開しています。リユースを軸として、当社が片付けを行うことでごみの発生が抑制される仕組みとなっており、この仕組みを高めていくことで循環社会へ貢献します。

事業開始から十数年が経ち、この数年は「新規事業として成長をめざすステージ」から、「企業としての成長をめざすステージ」へと変化しております。今年度はいくつかの新規プロジェクトを立ち上げることができました。そのひとつが「解体」です。遺品整理のお客様にご相談を多数いただいたことから立ち上げたプロジェクトですが、遺品整理と家屋の解体をワンストップで行える体制を整え、今後は対応エリアを広げていく予定です。同時に、リユース事業の強化も進めております。当社のリユースの仕組みを関東でも展開し、他社との連携や協定なども含め、進めていく予定です。

当社は新規事業からスタートした企業であり、「新しい取り組みをしていくこと」が文化としてあります。これからも社会課題に新しい提案で応えることで、ビジネスを展開していきたいと考えています。

リリーフの事業

おかたづけ事業

創業して最初に取り組んだことが「料金とサービスの明瞭化」です。作業後に金額確定という業者が多かった時期に、「見積り後に追加料金は一切いただかない」とすることで、お客様に安心を提供できる環境を整えました。お客様とコミュニケーションを密にし、様々なオプション作業にも対応できる体制を作ることで、安心してご利用いただけるよう配慮したサービス体制を構築しています。2022年3月末時点では、1年で5,900件超のお家を整理しました。

当社の「おかたづけ」は、単にモノを「処分する」のではなく、専門知識を持つスタッフが、ごみと資源に分別し、ごみを減らすことで環境負荷の軽減につながります。また、「おかたづけ」で回収した不用品を処分ではなくリユースするという大きな特徴です。お客様にとっては大事にされてきた家財をリユースすることで心の負担が減るだけでなく、処分にかかる金銭的な負担も全体の20%~40%軽減につながっており、このリユース比率向上も重要なテーマと捉えています。

全国にフランチャイズ展開

西宮市をはじめ東京の2拠点を中心に事業を行っています。2015年からはフランチャイズ方式で店舗を増やし、2022年3月末時点で全国20店舗を展開しています。

法人のお客様との連携も強化

自社にてコールセンターの設置および、法人専用の担当を設置し、提携先様とスムーズな連携が行えるように、体制を整えています。また管理体制を整えガバナンス強化に努めることで提携数は延べ500社を超えます。

神戸市すまいの総合窓口「すまいるネット」に参加

<https://www.smilenet.kobe-rma.or.jp>

神戸市すまいの安心支援センター（愛称：すまいるネット）は、すまいに関する相談や情報提供、普及啓発などを行う「神戸市のすまいの総合窓口」です。当社は、市民の暮らしをサポートする「家財の片付け支援事業者」として参加しています。

会社概要

資本金：50百万円
従業員：44名

代表取締役社長
赤澤 知宣



リユース事業

まだ使うことができる不用品を処分してしまうのではなく、再利用する仕組みとして「おかたづけ事業」と両輪で取り組んでいるのが「リユース事業」です。

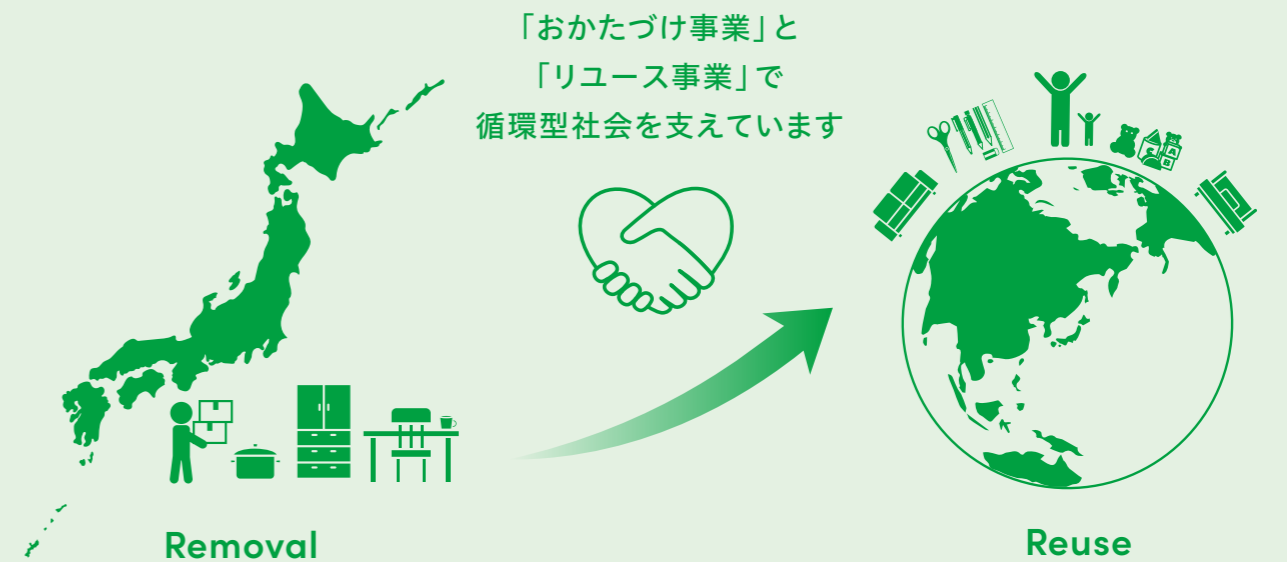
アジアでは日本の中古品が「Used in Japan」として人気があります。当社は、自社で倉庫機能、営業機能を持っており、環境変化にもすぐ対応できる体制が強みです。

どこでどんなものが求められているのかを把握した上で「不用品なものを求められる場所へ」きちんと仕分けしたう

えで輸出をしています。

現在、東南アジアを中心に年間160本程度コンテナを届けており、約1,400トン程の廃棄物量削減につながっています。今後は衣類や布団の輸出の準備を整えており、リユースの種類を幅を広げてまいります。

リユース事業の仕組みは循環型社会への貢献となり、私たちの経営理念でもある「五方よし」を体現したビジネスモデルを構築しています。



海外のリサイクルショップに並ぶ「Used in Japan」。コンテナが到着すると人が殺到するほどの人気



必要な場所に必要な品を届けるため、現地調査でニーズをリサーチ



株式会社ダイキョウクリーン

グリストラップ清掃

ビルや施設の環境管理を担う ファシリティマネジメントの領域へ

株式会社ダイキョウクリーンは業務用厨房に設置されているグリストラップ（油脂分離阻集器）清掃、ビルや施設の排水管、貯水槽など水回りの衛生維持管理サービスを行っています。2010年に株式会社大協の新規事業としてグリストラップ清掃事業をスタートして以来、飲食業界のインフラを支える「なくてはならない企業」をめざし、2015年には関東支社を開設、全国展開のチェーン店にもワンストップで対応できる体制を整えました。

近年は、グリストラップ清掃だけでなく、排水管の高圧洗浄や雑排水槽の清掃などにもサービスを拡大し、様々なご希望にお応えしております。今後はこれまでの経験と実績を活かし、ビルや施設の環境を総合的に管理するファシリティマネジメントの領域をめざすことで、地球環境負荷の低減と衛生安全に貢献していきたいと考えています。

会社設立から7年が経ちました。これまで順調に事業拡大を続けてまいりましたが、若手を中心に人材も育ち、組織基盤が整ったことで、企業としては新規事業への進出も視野に入れる段階に来ております。今期は、自社の持つ強みやリソースを活用した新事業の構想や報告書管理アプリの開発など新しいプロジェクトに着手いたしました。「3年同じことはしない」をモットーに、常に新しい挑戦を続ける企業でありたいと考えています。



会社概要

資本金：80百万円
従業員：42名

代表取締役社長
津田 政房

ダイキョウクリーンの事業

グリストラップ清掃

グリストラップとは「油脂分離阻集器」のことで、業務用の厨房から出た汚水の中から野菜くずや残飯を金網状のバスケットで集め、グリース（油）が下水に流出するのをトラップする（止める）装置です。飲食店では油を含む汚水が配管設備を傷めないよう油分の分離処理が義務付けられていますが、グリストラップは水に油を浮かせることで油分を分離し、下水に油が流出することを防ぐ役割があります。そして、水に浮いてたまった油は定期的な清掃が必要で、怠ると悪臭や害虫の発生の原因になります。飲食店の厨房などに設置されているグリストラップの汚れを定期的に取り除くことで、衛生環境の改善や水質汚染を防止、排出される汚泥の低減に貢献しています。



排水管清掃・詰まり解消

排水管の詰まりは、近隣施設への被害や営業のストップ、損害賠償などさまざまなリスクを引き起こします。当社は、専用の高圧洗浄車やポータブル洗浄機を保有し、詰まらせないための定期清掃や、万が一の際の排水管の清掃にも対応しています。

貯水槽・排水槽清掃

ビル、商業設備の貯水槽や地下、工場等に設置されている各排水槽（雨水槽、湧水槽、雑排水槽）の清掃や汚泥（産業廃棄物）の処理を承っております。測定器や送風機の使用などで有資格者による作業を行い、安全の確認・維持を徹底しております。

施設の衛生管理

ビル、商業設備などのダクト清掃、店内清掃、床洗浄、空調清掃など、施設の衛生管理を総合的に行っております。大型施設にも対応しており、定期的なメンテナンスを行うことで施設の維持に貢献し、効率的な施設経営をご提案します。

ダイキョウクリーンの5つの強み

2022年度はお客様のニーズを見直し、飲食業界だけでなく、大型施設や病院、ビルなどの衛生管理の総合的なサポートへとサービスを拡大させました。今後も「選ばれる企業」としてお客様のニーズに応えられるよう、エリアやサービスを拡充させていきたいと考えています。

強み 年間作業実績2万件以上

1 自社で年間2万件を超える作業実績を誇ります。豊富な作業実績で積み上げた技術力とノウハウで、あらゆる施設のニーズに対応できることが当社の強みです。飲食業界のグリストラップ清掃はもちろん、大型ショッピングモール、空港、病院などの排水管や貯水槽の清掃、補修などサービスも拡大しています。

強み 法令順守による適正処理の徹底

2 企業は廃棄物を適正に運搬・処理するだけでなく環境保全や環境負荷の低減をも考慮した姿勢が求められています。当社では清掃時に回収した油や食品残さは産業廃棄物としてすべて適正に処理し、業務完了後にそれを証明するマニフェスト伝票を発行しています。コンプライアンスを重視した当社の取り組みは、大手ファミリーレストランなどの飲食店をはじめ、複合施設、ホテル、百貨店と様々なお客様からご好評いただき、リスク管理意識の高い企業に選ばれています。

強み 「クレーム件数ゼロ」を追求

3 当社は、すべての作業でサービス品質の維持に努めています。清掃を手がける従業員はすべて社内研修を受けており、清掃器具の搬入から清掃、マニフェスト伝票の発行、搬出にいたるまで、凡事徹底のもと丁寧な仕事を心がけています。

強み 大型複合施設の高層階や地下階にも対応

4 対応が難しいとされるビルや大型複合施設の高層階や地下施設の店舗にも対応しています。あらゆるニーズに対応するため、高圧洗浄車をはじめ、各種バキューム車、ポータブル洗浄機材などを揃え、お客様の要望にきめ細かく応えます。

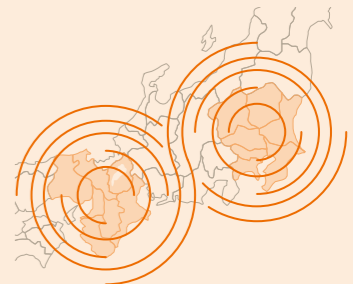


3tバキューム車17台、7tバキューム車2台、高圧洗浄車2台、2t平ボディトラック2台と、多くの作業車両を保有しています

強み 全国規模のチェーン店にもワンストップで対応

5 全国にサービスエリアを拡大させており、現在、関西・関東を拠点に、サービス提供地域は計14都道府県におよびます。また、大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県、岡山県、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県と幅広いエリアにおいて産業廃棄物収集運搬許可を保有しております。

事業規模を全国とすることで、複数店舗を持つ企業や全国展開の大手チェーン店にも窓口ひとつで対応、情報を一元管理し、業務の効率化にも貢献しています。



関東・関西の連携で、全国対応がよりスムーズに

当社は2015年に関東進出して以来、地道な努力により関東での市場を広げ、2022年4月に関東で3拠点目となる京浜事務所を開設いたしました。

これにより、関東、特に横浜方面のお客様によりきめ細やかなサービスが提供できる体制が整いました。また、全国に店舗を展開するチェーン店様にもワンストップでよりスムーズなサービスを提供することが可能です。これからも信頼と実績を積み上げ、「広域に対応できる」という当社の最大の強みを活かし、全国のお客様に貢献してまいります。



株式会社大栄衛生

西宮市のごみ収集事業

会社概要

資本金:10百万円
従業員:63名



代表取締役社長 赤澤 健一



株式会社大協

伊丹市のごみ収集事業

人材派遣業

会社概要

資本金:6百万円
従業員:77名



代表取締役社長 平井 里美

自らの事業を「市民サービス」と捉え、地域社会に貢献します

株式会社大栄衛生

昨年度は、私たちの仕事が「エッセンシャルワーカー」として社会に期待される中で、「西宮市のごみ収集事業者」としての原点に立ち戻る決意を込めて、株式会社大栄から株式会社大栄衛生に社名変更を行いました。今年度からはグッドホールディングスグループとしてグループシナジーを最大化し、事業の価値を高めていく方針ですが、その主導となるのが大栄衛生となります。グループの中核として、また、グループの中でも地域社会に最も近い企業として、社会課題に向き合っていきたいと考えています。

株式会社大協

私たちの事業は、いかなる状況下においても継続しなければならない社会インフラであることを常に念頭に置き、今後もエッセンシャルワーカーとして、事業継続を使命に社会基盤を支えてまいります。社内においても「自らの仕事は市民サービスである」との共通認識のもと、市民のみならずからいただいたご指摘だけでなく、称賛や感謝のお声も積極的に社内共有しております。みなさまのご期待に応えられるよう、社員一人ひとりが市民生活を支えるという意識を持ち、地域社会に貢献したいと考えています。

大栄衛生・大協の事業

法人向けサービス

事業系一般廃棄物の収集運搬

事業所（飲食店、スーパーマーケット、オフィスなど）から搬出される一般廃棄物を定期的に回収し、市の処理施設に搬入します。また、西宮・伊丹市外の工場などから排出される産業廃棄物、医療機関などから排出される感染性廃棄物などの収集運搬も行っています。引っ越し時のオフィスや工場の不用品、粗大ごみの処分なども行っています。

産業廃棄物収集運搬

あらゆる産業廃棄物を迅速・安全に収集し、中間処理施設や最終処分場に運搬します。業務の効率化を図るため、電子マニフェストを導入しています。また、多彩な車両や専用コンテナを保有し、お客様のニーズに的確にお応えしています。

個人向けサービス

家庭系粗大ごみの回収

家庭の粗大ごみの回収を行っています。玄関や階段が狭くて運び出せないといった危険を伴う搬出作業や、大量の不用品を一気に処分したいというニーズにプロがお応えします。

行政委託サービス

市のごみ収集を受託

西宮市・伊丹市のごみの収集運搬を行っています。私たちはこの事業を「市民サービス」と捉え、地域に根ざしたサービスで社会に貢献し、より良いまちづくりのお手伝いをしたいと考えています。

大栄衛生・大協の取り組み1

「廃棄物計量システム」と「従量課金制」

ごみを積み込むだけでその重量が計測できるスケールパッカー車と、顧客のごみの量をデータ管理する「廃棄物計量システム」を導入しています。ごみ収集量を「見える化」し、収集量に応じて料金を課す「従量課金制」を採用することで、顧客のごみの減量への意識向上と処理費用の経費削減に貢献しています。



ここに重量が表示されます



大栄衛生・大協の取り組み2

BCP（事業継続計画）の策定と実行

株式会社大栄衛生・株式会社大協は、近年の自然災害や新型コロナウイルス感染拡大など、サービスの遂行を妨げる事案に対してBCP（事業継続計画）の策定と実行に注力し、「いかなる時も市民サービスを止めない体制」を整えています。

伊丹市では、株式会社大協をはじめ同業者8社が協力し、非常時のマニュアルや行政との連絡網の作成に取り組み、体制を整えました。

大栄衛生・大協の取り組み3

「市民サービス」としての意識向上

市民の方々との挨拶やコミュニケーションはかねてから私たちが大事にしてきたことですが、コロナ禍でエッセンシャルワーカーとして社会から注目されるようになったことを機会に、社員一同、さらなるサービスの向上をめざしています。「大栄衛生、大協の人に会うと朝から気持ちがいい」と言っていたような会社をめざします。

TOPICS 1 関西初の女性によるごみ収集チーム「さくらチーム」

2017年に株式会社大栄衛生で発足した女性によるごみ収集チーム「さくらチーム」。「残業がないので家事や子育てとの両立がしやすい」「地域のひととのコミュニケーションが楽しい」とスタッフの定着率も高く、さくらチームの明るさは社内の活気の源でもあります。西宮市内でピンクのパッカー車を見かけたら、ぜひ気軽に声をかけてください。



TOPICS 2 西宮市内小学校でのごみと資源についての「出前授業」

株式会社大栄衛生では、西宮市内の小学校や高校で出前授業を行っています。実際にパッカー車の実物を身近に見てもらい、機能の説明やごみ袋の投げ入れ体験を行うことで、家庭ごみの出し方・分け方のマナー、リサイクルや環境問題等についての興味を深め、学びの機会を提供しています。



TOPICS 3 大阪府立豊中高校能勢分校のキャリア支援に協力

株式会社大協は、「地域企業をキャリアの授業に招き、学生にリアルな模擬面接を体験させたい」という豊中高校能勢分校のキャリアプログラムの企画に賛同し、模擬面接と面接指導を担当いたしました。数日後に企業面接を控えた生徒さんが自信を持って本番を迎えられるよう、人事の視点からアドバイスさせていただきました。



市民サービスに貢献!

市民の方々より称賛のお声をいただきました!

株式会社大栄衛生・株式会社大協には、「丁寧にゴミステーションの片付けをしてくれた」「ゴミステーションの掃除を手伝ってくれた」「カラスにごみを荒らされない方法を教えてくれた」など、市民のみなさんからたくさんのお声が届いています。

私たちは、市民や行政、企業など社外とのコミュニケーションを日々記録として残しています。これまでは、市民の方からいただいたご指摘や、苦情等を中心に社内共有しておりましたが、今年度よりコミュニケーションの項目の「称賛」にも注目していきます。市民の方からいただいた喜びや感謝のお声も社内でも共有することで、より市民サービスの向上をすすめ、市民のみなさまに喜ばれる地域企業をめざしてまいります。今年度の「称賛」の一部をご紹介します。



株式会社大協 環境事業部 櫻井 健善

2人で家庭ごみの収集作業をおこなっているときに、自転車の女性が歩道の段差に引っかかって転倒されたのを見つけ、すぐに車を路肩に寄せて駆けつけました。出血がひどかったため、「救急車を呼びましょうか」と問いかけたところ、「かかりつけの病院がすぐ近くなので歩いていきます」とのこと、病院まで自転車を押し一緒に付き添いました。後日、ご丁寧に会社にお礼のお電話をくださり、怪我も大事には至らなかったようで安心しています。

市民の方とのコミュニケーションは、この仕事の一番のやりがいです。これからも、ごみの回収時に市民のみなさんと挨拶を交わしたり、「ありがとう」と声をかけていただけたりする日常を大切に、安全第一で心に余裕を持ちながら仕事を続けていきたいと思います。

株式会社大協 環境事業部 藤田 大吾

「目の前で怪我をされた方を救護する」という当然のことをしただけなのですが、わざわざお礼のお電話までいただき、感謝しています。それを「称賛」という形で取り上げていただいたことも光栄です。

私たちは自らの仕事を「市民サービス」と捉えています。また、伊丹市にはたくさんのトラックが走っていますが、当社の青・緑・赤のパッカー車が市民の方にとって一番身近なトラックでありたいと思って日々仕事をしていますので、市民の方の助けになれたことがとても嬉しいです。

私はこの度、「運行管理者」の国家試験に合格し、社内でも運行管理としての役割を担うことになりました。ドライバーに安全を指導する立場になりますので、より一層、安全への意識を高く持ち、仕事に取り組んでいきたいと思います。

業界の人材不足に貢献!

エッセンシャルワーカーに特化した人材派遣事業



環境ビジネス業界に特化した人材派遣事業「G career (ジーキャリア)」は、「人材不足」という業界が抱える慢性的な課題の解決を掲げ、2017年にスタートしました。環境ビジネスに携わってきた長年の経験を活かし、エッセンシャルワーカーの育成から人材派遣、紹介、請負契約事業までをサポートしています。

事業開始以来、環境ビジネスドライバーや作業スタッフの安定した数の人材を確保し、派遣先の企業数も年々増加、新規事業として着実に成長を続けてきました。コロナ禍を経て、エッセンシャルワーカーの仕事が「社会性のある仕事」であること、また、社会情勢や景気に左右されない「安定した仕事」であることが社会的に認知されたことで、多くの方に就業いただき、業界の人材採用に大きく貢献しました。

私たちは、環境ビジネス業界の人材の受け皿となるだけでなく、採用や人材研修、定着率の向上、労働環境改善まで幅広くサポートすることで、業界全体の人事労務管理に貢献していきたいと考えています。

環境関連の幅広いジャンルで事業展開

今後は、多様化する働き方にも対応できるよう環境に関連する幅広いジャンルで人材サービス事業を展開していきます。今年度よりビルメンテナンス業界への人材派遣も開始しており、多くの業界で人材不足の解消に寄与したいと考えています。

業界未経験の人材を育成するG careerの研修カリキュラム

当社の環境ビジネス人材派遣事業の大きな特徴は、「業界未経験者を育成する研修体制」を整えているということです。業界未経験者を育成し、即戦力として派遣できるこの仕組みは、今回のコロナ禍において他業種からの未経験人材の受け入れを可能としました。

ドライバー10日間、助手5日間の研修カリキュラムを用意しております。研修には、直接の業務にかかわる運転技術や安全教育はもちろん、仕事に対する姿勢やマナー研修も取り入れ、環境ビジネス業界と地域社会に貢献する人材の育成をめざしております。



安全教育

法令遵守の徹底、車両点検の重要性など、環境ビジネスドライバーに必須の安全教育を行います。



運転教育

エコドライブ、狭路運転、巻き込みや過積載の危険性、駐停車の際の注意点などを徹底的に指導します。



実地研修

実際のルートに沿って運転を行い、収集現場にて作業を行います。



カリキュラム研修

当社オリジナルの座学研修を個人のレベルに合わせて段階的に行います。

ESGの 取り組み

当グループは創業以来、地域の暮らしと産業が抱える課題に真摯に応えることを使命に事業を展開してまいりました。また、社会とともに歩む企業グループとしての社会的責任を果たすことを心がけております。コーポレート・ガバナンスの強化はもちろんのこと、環境、社会の経営課題に長年にわたって取り組み、一歩ずつ前進してまいりました。今後もこれまで培ってきた経営基盤のもと、社会と産業における新たな課題の解決に向けて注力してまいります。

コーポレート・ガバナンス > P32

組織統治
法令順守
情報開示・説明責任



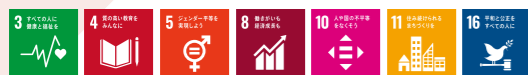
環境における取り組み > P37

マテリアルバランス
活動の目標と実績
環境負荷低減の取り組み
環境パフォーマンスデータ



従業員とともに > P41

活動の目標と実績
労働安全衛生の取り組み
人事に関する取り組み
安心して働ける環境づくり



地域社会とともに > P46

活動の目標と実績
お客様とのコミュニケーション
消費者課題の取り組み
苦情・事故



コーポレート・ガバナンス

健全で透明性の高い経営に向けた取り組みを強化し、
ステークホルダーのみなさまの信頼に応えてまいります



基本的な考え方 グッドホールディングスグループは、法令を順守し健全で透明な企業経営を行うことを基本に、「事業」を通じて優れたサービスを提供することにより、社会の発展に貢献するとともに、ステークホルダーからの期待と信頼に応えることを基本的な考えとしています。

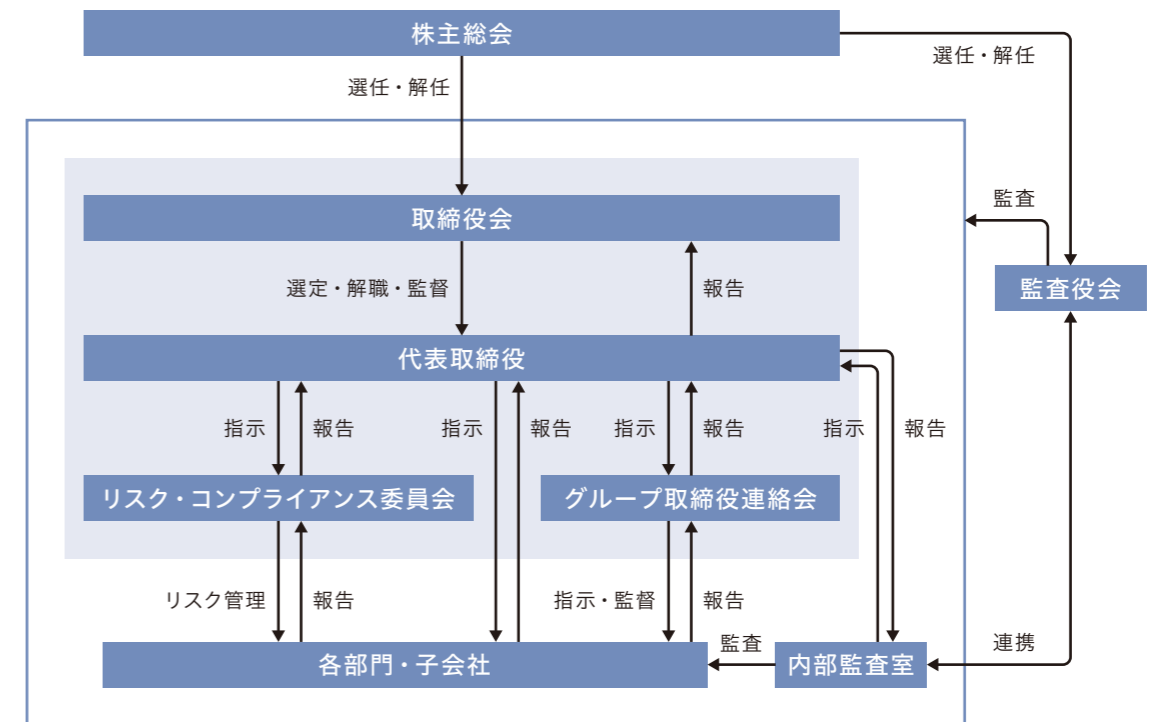
組織統治

経営管理体制

「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

当グループは、すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業および経営に努めています。また、グループ全体の持続的成長および中長期的な企業価値向上をめざし、コーポレート・ガバナンスの構築、強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体系図



その他の会議体

各社事業会議／定例会 会社の方針や課題について協議することで、円滑な業務執行を図っています。

取締役会

経営の重要な意思決定と
取締役の業務執行の監督を行います

当社の取締役会は7名（うち社外取締役1名）により構成されており、経営の重要な意思決定と各取締役の業務執行の監督を行っております。また、独立性の高い社外取締役より、客観的な提言および助言を得ております。

リスク・コンプライアンス委員会

総合的なリスク管理と
コンプライアンスの徹底に取り組みます

月に1回開催する当委員会は、グループ代表取締役社長を委員長とし、監査役、子会社代表取締役社長、取締役および委員長から指名された委員で構成されています。会合では潜在的・顕在的なリスクやコンプライアンス違反などについて協議・検討し、総合的なリスク管理に努めるとともに、研修教育を行い、企業の社会的責任とコンプライアンスの徹底に取り組んでおります。

リスク・コンプライアンス委員会では2022年度において、下記のような議題について報告、協議などを行ってまいりました。




反社会的勢力のチェック	販売先や取引先が反社会的勢力でないかのチェック状況の報告および課題についての協議
労務管理	時間外労働時間の実績（単月、累積）、入退社数の状況、有給休暇の取得状況などの報告および課題についての協議
内部監査報告・改善状況報告	実施した監査内容の報告および改善状況の報告
教育研修	研修の計画および実施 2022年度は前年度に続き新型コロナウイルスの影響もあり、オンライン研修を中心に実施いたしました ・ハラスメント防止規程のポイント（全従業員向け） ・景表法の基礎知識と実例紹介、注意点の周知（管理者および担当者向け） ・コンプライアンスの基本、事例、防止策等（管理者および担当者向け） ・独占禁止法について（役職者および該当事業会社の担当部署） ・個人情報保護法改正のポイント（全従業員向け）※ ・情報セキュリティ（全従業員向け）※ ・労働時間管理について（役職者向け） ・上司のハラスメントケースおよび番外編（役職者向け） ※2023年度に継続して実施
事故報告	各社で発生した事故（車両や設備などでの事故および情報システム障害やセキュリティ事故含む）の概要および防止策などの報告
その他	・新型コロナウイルス感染防止対策実践内容の共有 ・新型コロナウイルスやインフルエンザのワクチン接種状況の共有と推進 ・人事労務関連法令の改正状況の共有 ・関連する規程やマニュアルの制定や改定について協議および共有

監査役会

業務執行の監視、監督を行っています

当社の監査役会は、常勤監査役1名、社外監査役2名によって構成し、監査役会規程に基づき原則毎月1回開催し、重要事項について報告、協議、決議を行っております。社外監査役2名は、それぞれ弁護士、公認会計士で、専門的見地と独立した立場から監査を行っております。取締役会のほか、グループ取締役連絡会などの重要な会議に出席し、重要な意思決定の過程および業務の執行状況の把握に努めるとともに、必要に応じて取締役に対して勧告などを行い是正を求めています。

VOICE

グッドホールディングス株式会社 常勤監査役 グッドホールディングス株式会社 社外監査役 グッドホールディングス株式会社 社外監査役

八鳥 尚志 上田 憲 南方 得男

監査役はなぜ必要だと思いますか。会社は経営者のものではなく、株主のものという考えに立って、経営者が株主に損害を与えるようなコンプライアンス違反をしないように監視するのが監査役役割とされています。監査役が取締役会に出席し、必要に応じて意見を述べているのも権限の一つですが、最近では当社の「五方よし」という経営理念にも象徴されるように、株主だけでなく、役員や従業員、さらに顧客や地域社会といったステークホルダーの利害にも配慮した監査が求められています。

監査役職務はとても広範ですが、大きく分けると、取締役の職務執行を監査する業務監査と、計算書類やその附属明細書を監査する会計監査があります。当社およびグループ会社では、常勤監査役が毎月のグループ取締役連絡会、リスク・コンプライアンス委員会、安全衛生委員会に出席するとともに、稟議書や面談記録簿の閲覧や内部監査室との共同往査なども実施し、その結果を社外監査役と定期的に情報共有しています。これにより業務運営が適切に行われているか、従業員の健康管理を含めた労務管理が適切に行われているか、法令上問題のある事項がないかどうかなどを日常的にチェックし、監視しているわけです。仮に不正行為やコンプライアンス違反が見つかったときは、監査役が取締役会を招集し、当該行為の差止請求をするなどの厳しい対応が求められます。

このように当社の持続的な成長・発展のためには、私たち監査役による適切な監視・監督が必要かつ重要であると考えています。

内部監査部門による監査

内部監査による検討評価、助言・提案、
フォローアップ監査を徹底しています

内部監査室は代表取締役の直轄部署として設置され、当グループの会計、業務、コンプライアンス、情報システムおよびリスク管理など専門的な知識をもって、効果的な監査を実施できる体制を整えています。内部監査結果については、内部監査報告書として取りまとめ、改善を要する事項が発見された場合には、助言・提案を行うとともに、被監査部門による改善状況をフォローアップ監査により確認しています。

また、内部監査の実施状況は当グループ全役員も参加するリスク・コンプライアンス委員会で報告し、委員会メンバーと共有しております。

グループ取締役連絡会

グループ全役員による連絡会で
協議を行います

グループ全役員および監査役、内部監査室長で構成され、月に1回開催しております。各社の業績報告や決議事項についての協議を行い、グループ内の共通認識を図る機関として運営しております。

業績報告会

全従業員に業績をオープンにしています

売上高や利益高などを報告する業績報告会を、グループ各社ごとに毎月1回行っております。この業績報告会では、役職者だけでなく、一般社員やアルバイトなどすべての従業員を対象にしており、全社や各部門の収益状況、その分析などが報告されます。会社の業績をオープンにし、従業員が経営状況を正しく理解することにより、事業運営への参画意識が高まり、経営課題や業務の改善につながっております。

内部通報制度

不正行為の未然防止、早期発見を図っています

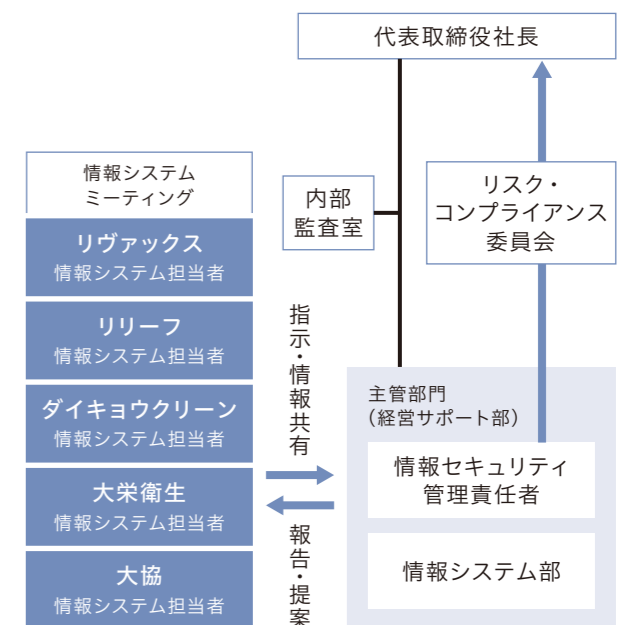
当グループでは、法令違反、規程違反、社会通念に反する行為などを早期に発見し、不正行為を未然に防ぐとともに必要な改善を図り、コンプライアンス経営の推進を目的として、内部通報・相談窓口（グッドホールディングス・ヘルプライン）を設置しております。通報・相談窓口は、社内と社外の両方に設置し、匿名での通報や組織的な問題に関する通報を行いやすいよう配慮した制度になっております。

情報システムセキュリティ体制

事業活動において取り扱う情報資産の保護を
私たちの責務と捉え、サービスの継続的な提供と
健全な事業の発展に努めています

当グループの取り扱うさまざまな情報資産に対する漏洩や改ざん、紛失などのリスクを回避・低減するため、「情報セキュリティ安全管理規程」ならびに「IT管理規程」を定め、情報セキュリティにかかわるリスク管理を行っております。また、規程の管理・運用は各社の情報システム担当者が担い、定期的に行われるミーティングやリスク・コンプライアンス委員会で、組織全体の情報セキュリティ体制を常時見直し、徹底した情報資産の保護・管理に努めております。

情報システムセキュリティ体制



法令順守

法令順守状況

2022年度も重大な違反はありませんでした

グループ各社ごとに順守すべき法令を特定し、その順守に努めています。また、法令で定められた時期に行政へ必要な報告をしているか、法令に則った運用が適正に行われているかなどを、適宜確認しています。

2022年度においても、前年度に引き続き重大な違反はありませんでした。

事業に関する主な法令(抜粋)

法令	内容
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と書面の備え付けなど
大気汚染防止法	NOx、ばいじんなどの排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準など
騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
道路運送車両法	自動車の点検および整備義務
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任など
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施など
酸素欠乏症等防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検など
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検など
西宮市との環境保全協定	大気・悪臭などの測定方法や回数など

順守評価の実施

「順守評価記録」を活用し、法改正にも迅速に対応しています

当グループに適用される法令は法的要求事項として一覧にまとめ、「順守評価記録」で管理しています。この記録に従って、法的要求事項が守られているかを評価するとともに、万一、違反が発見された時は是正処置を行う手順を確立しています。事業にかかわる法改正については、当該記録項目を改訂するとともに、必要な対応とあわせて関連部署に伝達し、社内を展開しています。



順守評価記録

過積載の防止

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物の収集運搬を行う株式会社リヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。積載量を超過した場合は、お客様に報告して一緒に原因を考え、その対策を講じています。

処理前契約締結の徹底

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託および受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。当グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。とりわけ、産業廃棄物事業を主体とする株式会社リヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認を行うことにより、処理前の契約締結に努めています。

情報開示・説明責任

サステナビリティレポートの発行

事業活動だけでなく、社会や環境への取り組みをお伝えするコミュニケーションツールとして、毎年発行しています

廃棄物処理事業そのものや、当グループの取り組みを広く知っていただきたいとの思いで、株式会社リヴァックスは2002年から、株式会社大栄衛生および株式会社大協は2008年から報告書を発行してまいりました。2015年からはグループ統括で毎年発行しております。

今後もステークホルダーの皆さまと私たちを結ぶ重要なコミュニケーションツールとして、引き続きその充実に努めてまいります。



産廃情報ネットでの情報開示

優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開しています

2011年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度※」が創設されました。グループ各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。同制度の事業の透明性に係る基準に沿って、当グループの許可内容や財務諸表などの情報を、公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」に公開しています。

※優良産廃処理業者認定制度：5つの基準 ①遵法性 ②事業の透明性 ③環境配慮の取組 ④電子マニフェスト ⑤財務体質の健全性）すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。

【産廃情報ネット】 <https://www.sanpainet.or.jp>

メールニュース・Webでの開示

活動報告、活動状況などを掲示・メール配信しています

毎月、グループ各社の最新の活動報告やセーリングチームの活動状況などをWebサイト (<https://www.goodhd.co.jp/>) にて掲載しております。また、各社が自社の活動報告やイベント告知をお知らせするほかに、グループ共通で展示会・セミナーの案内などをメールニュースにて配信しています。これ以外にも月1回、株式会社リヴァックスでは「廃棄物・リサイクル関連法の最新情報」として、法改正の状況や行政が主催する案内を配信しています。



Webサイト



メールニュース

環境における取り組み

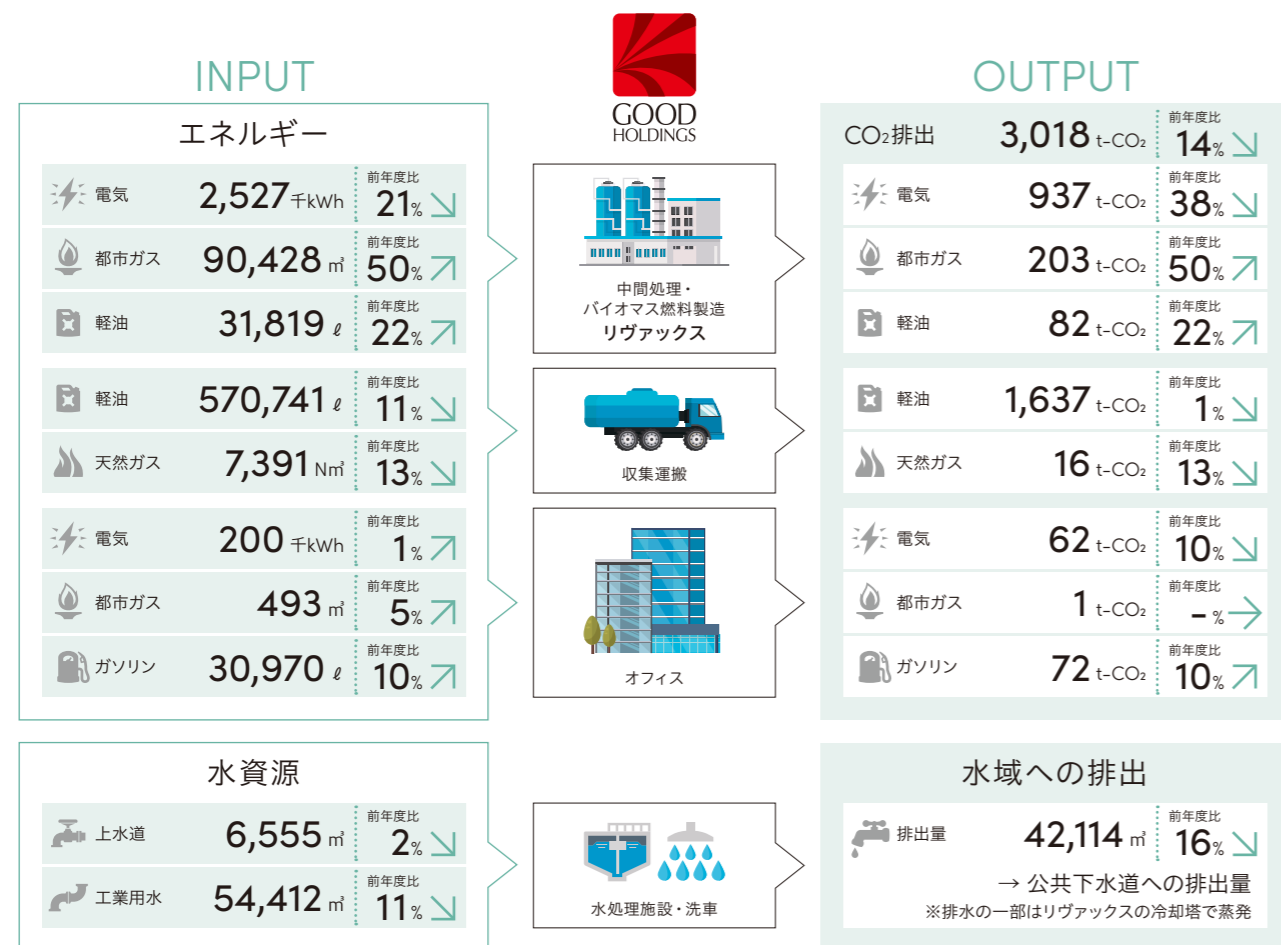
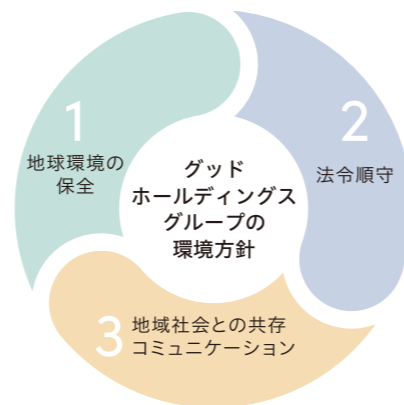
全グループを挙げて、事業活動における環境負荷の低減に努めています



基本的な考え方 地球環境を守り、社会の持続的な発展に貢献していくことは私たちの責務です。グッドホールディングスグループは、地球環境の保全、法令順守などへの取り組みを継続し、事業環境にともなう環境負荷の低減などに努めています。

マテリアルバランス

2022年度における事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量 (INPUT) と二酸化炭素 (CO₂) などの環境への排出量 (OUTPUT) は次のとおりです。INPUTとOUTPUTを把握したうえで、資源の有効活用および環境負荷の低減に取り組んでいます。



二酸化炭素 (CO₂) の排出係数
 参考データ (環境省) 供給された電気 (関西電力) 0.000311t-CO₂/kWh、(シン・エナジー) 0.000435t-CO₂/kWh
 軽油 (単位発熱量) 37.7GJ/kl (排出係数) 0.00258tC/GJ 天然ガス (単位発熱量) 43.5GJ/千Nm³ (排出係数) 0.00222tC/GJ
 都市ガス (単位発熱量) 44.8GJ/千Nm³ (排出係数) 0.00225tC/GJ ガソリン (単位発熱量) 34.6GJ/kl (排出係数) 0.00232tC/GJ

※リヴァックスの中間処理・バイオマス燃料製造は、2022年4月～7月まではシン・エナジーの排出係数を、2022年8月～2023年3月までは関西電力の排出係数を利用しています。

活動の目標と実績

活動企業	2022年度目標	2022年度実績	結果	2023年度目標
リヴァックス				
自社施設 (乾燥・破袋・積保・破砕) の取扱量におけるエネルギー使用量削減 (原単位あたり)	電気: 92.92kWh/t以下 燃費: 4.18km/ℓ以上	98.21kWh/t 4.1km/ℓ	×	前年度以下 前年度以上
オフィスにおけるエネルギー使用量削減	電気: 4,896kWh/月以下 燃費: 22.62km/ℓ以上	4,959kWh 22.8km/ℓ	×	前年度以下 前年度以上
安心・信頼される廃棄物処理サービスの追求	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守	4件 臭気測定・排ガス: 基準値内 排水の適正処理: 基準値内	×	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守

リリーフ				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 6.0kWh以下	4.8kWh	○	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 13.5km/ℓ以上 軽油: 6.7km/ℓ以上	15.5km/ℓ 7.1km/ℓ	○	前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	事務所内の廃棄物減量: 799kg以下	800kg	×	前年度以下

ダイキョウクリーン				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 6.0kWh以下	4.8kWh	○	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 6.22km/ℓ以上 軽油: 5.41km/ℓ以上	7.24km/ℓ 5.48km/ℓ	○	前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	水の使用量削減: 885.5m ³ 以下 事務所内の廃棄物減量: 283kg以下	798.1m ³ 264kg	○	前年度以下 前年度以下

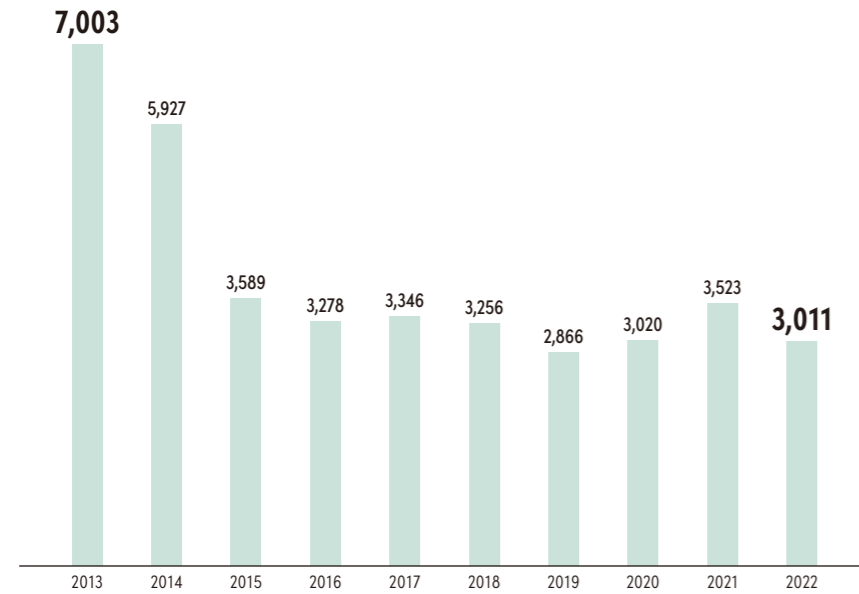
大栄衛生				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 6.0kWh以下	4.8kWh	○	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 12.0km/ℓ以上 軽油: 2.78km/ℓ以上 天然ガス: 4.04km/Nm ³ 以上	11.2km/ℓ 2.6km/ℓ 8.27km/Nm ³	×	前年度以上 前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	水の使用量削減: 3,099m ³ 以下 事務所内の廃棄物減量: 607kg以下 CO ₂ 排出量削減: 574,965kg-CO ₂ 以下	2,793m ³ 791.9kg 602,685kg-CO ₂	×	前年度以下 前年度以下 前年度以下
	グリーン購入の推進	コピー用紙などの対象品目の購入	○	継続的な実施

大協				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 33,242kWh以下 ガソリン: 14.28km/ℓ以上 都市ガス: 107.2m ³ 以下	30,344kWh 14.5km/ℓ 113.2m ³	○	前年度以下 前年度以上 前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	コンテナ車: 4.67km/ℓの±3% 大型車: 4.97km/ℓの±3% 小型車: 2.56km/ℓの±3% 平ボディ車: 3.35km/ℓの±3%	4.76km/ℓ 2.61km/ℓ 3.40km/ℓ 5.31km/ℓ	○	前年度比±3% 前年度比±3% 前年度比±3% 前年度比±3%
環境負荷低減	水の使用量削減: 1,672m ³ 以下 紙の使用量削減: 155.25kg以下 事務所内の廃棄物減量: 355kg以下	1,796m ³ 234.00kg 435kg	×	前年度以下 前年度以下 前年度以下

グッドホールディングス				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 6.0kWh以下	4.8kWh	○	前年度以下

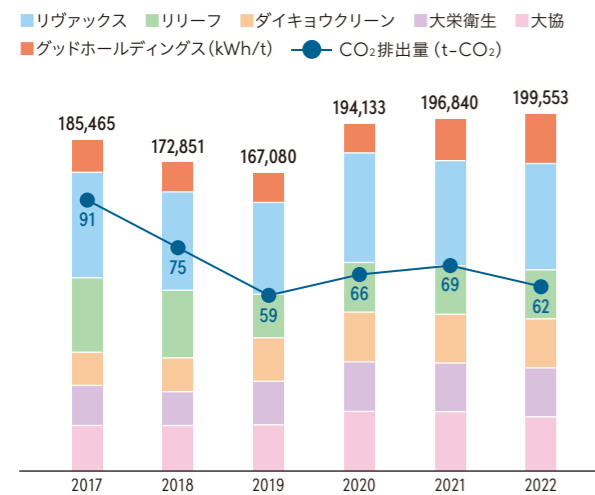
環境負荷低減の取り組み

CO₂総排出量 (t-CO₂)



2021年に開催された気候変動サミットにて、日本は2030年度のCO₂削減目標を「2013年度から46%削減」と宣言しました。グッドホールディングスグループでは、株式会社リヴァックスが2014年に新設したバイオマスボイラーを活用することで、2013年度に7,003t-CO₂だったCO₂排出量が2022年度には3,016t-CO₂と、50%の削減を実現しております。バイオマスボイラー新設後の削減率は横ばいですが、引き続き省エネルギー活動を実施し、脱炭素に向けた取り組みを進めてまいります。

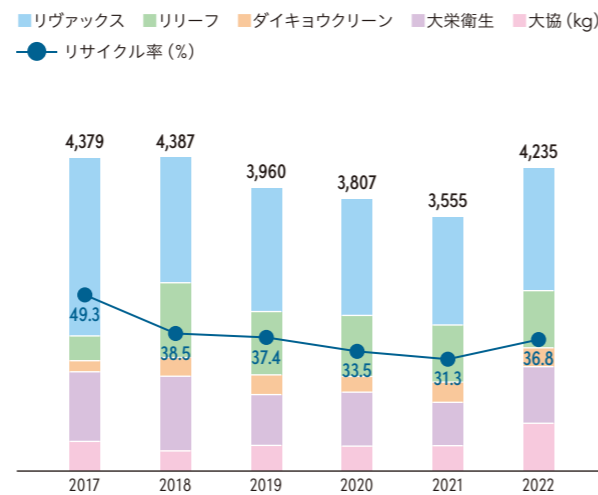
オフィスの電気使用量



照明点灯時間の短縮、空調の温度管理で省エネ活動を推進しています

今年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策として、換気を十分にしながらの空調使用を行ったため、オフィスでの電気使用量は199,553kWh/tで、前年度比1%増でした。今後も換気をしっかりと行いながらオフィスでの照明点灯時間の短縮と、空調の温度管理などによる省エネルギー活動を実施してまいります。

オフィスのごみ排出量

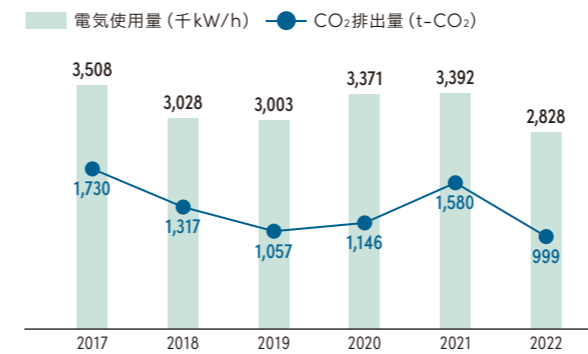


分別・リサイクルの徹底に努めています

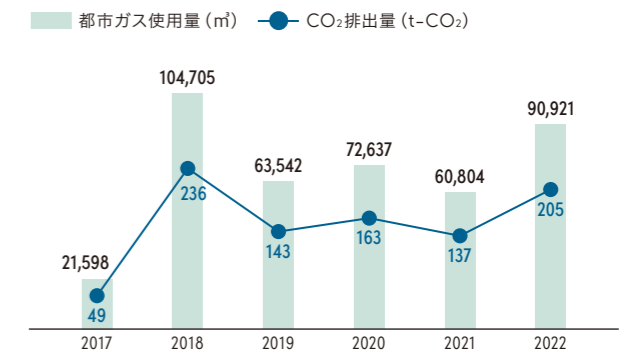
オフィスから排出する廃棄物はリサイクルの可否を基準に種類ごとに分別し、リサイクルを推進しています。2022年度のオフィスからの総排出量は4,235kg、リサイクル率は36.8%でした。業務での使用により総排出量は19%増加してしまいましたが、リサイクルを徹底することでリサイクル率は17%増加することができました。

環境パフォーマンスデータ

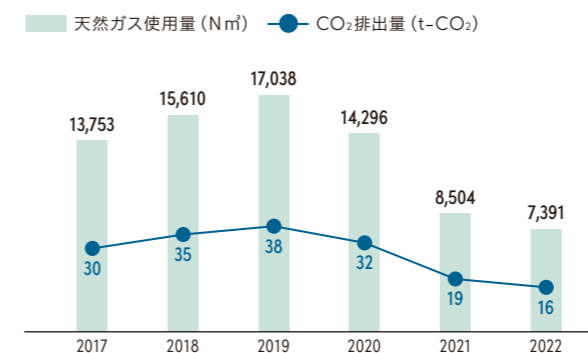
処理センター・オフィスの電気使用量



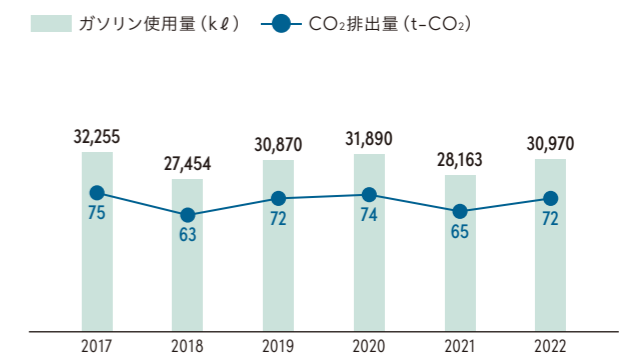
処理センター・オフィスの都市ガス使用量



天然ガス使用量

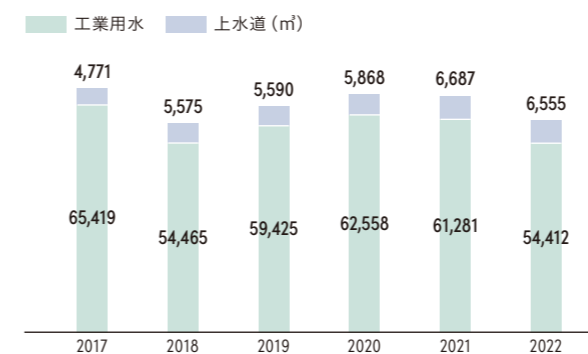


ガソリン使用量

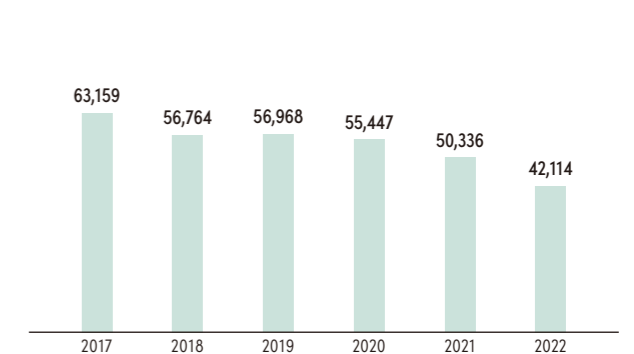


※2020年度までは大栄衛生のみだったが、2021年度よりリヴァックス追加

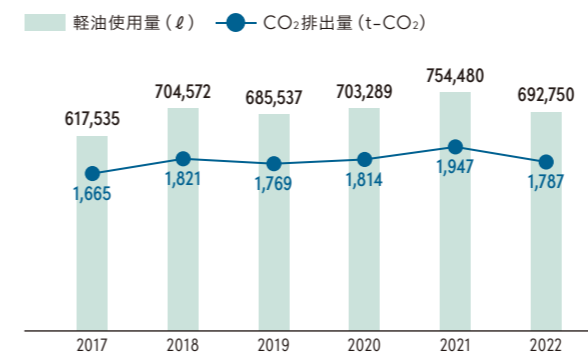
水使用量



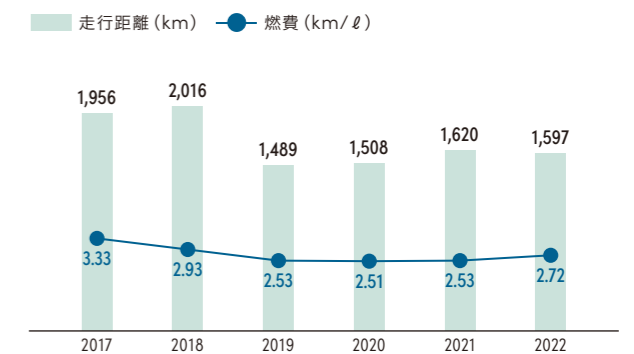
水域への排出量 (m³)



軽油使用量



軽油の燃費



従業員とともに

一人ひとりが仕事に誇りと生きがいを持てる企業グループをめざして



基本的な考え方 グッドホールディングスグループは、あらゆる人の尊厳と人権を尊重し、その重要性と普遍性を認識しています。また、従業員一人ひとりの個性を活かし、ゆとりや豊かさを実感し、生きがいを感じて働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

活動の目標と実績

[活動のテーマ] 社員ならびに従業員とその家族を含め、お客様のために働くすべての人たちが安心して働ける職場環境づくり

2022年度目標		2022年度実績	結果	2023年度目標	
リヴァックス	労働災害：0件	3件	×	0件	
	事故ゼロ 物損事故：12件以下 (前年度比50%以下)	37件	×	16件以下 (前年度比50%以下)	
	安心して働ける 職場環境づくり	パトロールの実施：月1回 社内一斉清掃の実施：年2回	月1回実施 年2回実施	○	パトロールの実施：月1回 社内一斉清掃の実施：年2回
	従業員の疾病予防・健康増進	・新型コロナウイルス対策の実施 ・PCR検査の実施 ・インフルエンザ予防接種の実施 ・ストレスチェックの実施 ・定期健康診断の実施	○	○	従業員の疾病予防・健康増進
リリーフ	事故件数の削減 4件以下 (前年度比50%以下)	労働災害：3件/物損事故：11件	×	7件以下 (前年度比50%以下)	
ダイキョウクリーン	事故件数の削減 2件以下 (前年度比50%以下)	労働災害：1件/物損事故：5件 人身事故：2件	×	4件以下 (前年度比50%以下)	
大栄衛生	事故件数の削減 5件以下 (前年度比50%以下)	労働災害：5件/物損事故：8件 人身事故：2件	×	7件以下 (前年度比50%以下)	
大協	事故件数の削減 8件以下 (前年度比50%以下)	労働災害：9件/物損事故：16件	×	12件以下 (前年度比50%以下)	
グッドホールディングス ※グループ全体の数値を記載しております	情報セキュリティ 深刻、重大事故：0件 限定的、軽微事故：2件以下	0件 2件	○	○	深刻、重大事故：0件 限定的、軽微事故：2件以下
	情報システム 障害件数 深刻、重度障害：0件 限定的、軽微障害：6件以下	0件 0件	○	○	深刻、重度障害：0件 限定的、軽微障害：6件以下
	36協定違反：0件	2件	×	○	0件
	有給消化取得5日以上：100%	取得率：100%	○	○	100%

労働安全衛生の取り組み

リスクアセスメント/ヒヤリハット

毎年すべての作業工程におけるリスクを洗い出し、対策を講じています

株式会社リヴァックスでは、ISO45001(労働安全衛生マネジメントシステム)に基づいて、年1回、全社員ですべての工程におけるリスクアセスメントを行っています。2022年度は924件の危険源を抽出し、その中からリスクポイント

の高い危険源を286件特定し、リスク管理を実施しました。リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する(例：安全柵の設置)などハード面の対策、危険の見える化、そして手順の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策を講じています。また、事故に至らずともヒヤリハットの抽出も常時行っており、2022年度は144件でリスクアセスメントを実施しました。

ドライブレコーダーの活用

収集業務の全車両に搭載し、事故を未然に防ぎます

株式会社大栄衛生、株式会社大協では、業務で使用する全車両にドライブレコーダーを車両前後に搭載し、ドライバーの運転を管理しています。ドライバーが自身の運転特性を把握し、安全運転を意識すること、運転技量を向上させることを目的としています。また、運転時に生じたヒヤリハットを記録し、従業員への安全教育や改善指導に使用することで、交通事故の防止に役立っています。

さらに2023年1月からは一部の収集車両でリアルタイムに位置情報を把握し、収集ルートにおいて安全で効率的な運行や経済走行による燃費向上に役立つシステムを導入し、安全運転やCO₂削減に取り組んでいます。今後は適用する車両を拡大していく予定です。



ドライブレコーダーの映像

環境・安全に対する対策

安全管理および廃棄物管理に関する研修に参加しています

廃棄物に関する基礎知識の習得、環境保全および労働安全に対する意識づけを目的とし、大阪府産業資源循環協会が実施している廃棄物管理士講習会に参加いたしました。また、廃棄物の収集・運搬過程についても知見を深めるため、産業廃棄物または特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会へも参加しております。

交通安全運転講習

作業員全員が安全講習を受講し、事故防止に取り組んでいます

当グループは全体で131台の業務車両を保有しております。事業を行う上で「安全」は最優先事項であり、グループを挙げて交通事故防止に取り組んでいます。安全運転を徹底するための教育の一つとして、清掃組合主催の交通安全講習会に作業に携わる従業員が全員参加し、事故の実例や普段見落としがちな危険について学んでいます。



交通安全講習会

5S活動の推進

「整理・整頓・清掃・清潔・躰」

きれいな職場を保つことが労働安全衛生に繋がるとの考えのもと、これまでの3S活動に加えて、5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進しています。備品や工具類の使用頻度基準を定め、それをもとに必要数および保管場所決め、だれが見てもわかるよう「見える化」する、書類をデータ化し廃棄するなど、さまざまな手段を講じています。これらの活動は、仕事に使う備品や道具を探し回るような無駄な動きを減らし、生産性の向上にもつながっています。



人事に関する取り組み

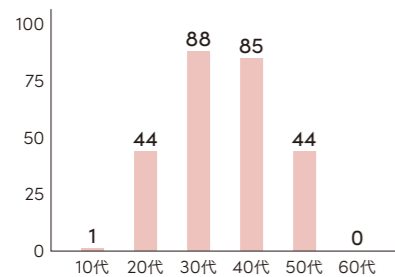
人事制度

「年功型」と「成果型」に加え、「技能・知識型」を調和させた人事制度を運用しています

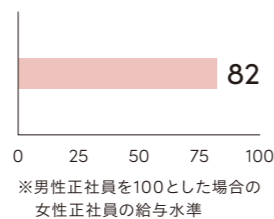
当グループでは、社員が安心して働くことができ、かつ取り組んだ仕事の成果が正当に評価される人事制度をめざしております。人事制度は、社内外の環境の変化に適応し、その時の状況に合ったものに変化させていくことが大切であると考えております。2018年度には給与体系の考え方を整理し、「年功型」と「成果型」、さらに「技能・知

識型」と3つの観点を調和させた制度で、有資格者や専門的な知識を有する社員には、それに見合った手当を支給するなどの見直しを行い、2022年度時点で合計186名に資格取得の手当を支給しております。また、2020年度は同一労働同一賃金に対応するため、アルバイトや派遣社員等有期契約社員の待遇面や福利厚生面の見直しを行い、就業規則などを改訂し2021年度から施行しております。加えて、新型コロナウイルス感染対策としてのテレワーク実施状況を踏まえて、在宅勤務規程を新たに制定しております。

2022年度の社員の年齢構成(名)



2022年度の男女間の賃金格差(男性=100%)



人事関連データ

種類	年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
社員	(名)	161	198	214	228	240	262
アルバイト	(名)	57	57	65	68	74	89
従業員数*	(名)	218	255	279	296	314	351
女性従業員比率	(%)	15.2	11.4	11.6	13.5	12.1	13.4
女性役職者比率	(%)	9.3	8.6	8.5	8.5	10	9.9
社員平均年齢	(歳)	38.2	46.3	39.0	40.2	39.6	39.5
社員平均勤続年数	(年)	8.7	9.3	8.5	8.9	7.2	8.6
社員離職率	(%)	7.7	7.6	13.2	9.5	11.5	14.8

※ 社会保険未加入の時短勤務対象者も含む

当グループの男女間賃金格差は82で、2022年度の日本国内平均の75.7に対して格差は小さい結果でした。(賃金構造基本統計調査参照)

格差については女性の平均勤続年数が男性に対して2.86年短いこと、女性役職者の割合が男性に比べて7.6%少ないことが要因です。

なお、うち1名は育児休業のため集計から除いております。

各種規程の制定や改定

法令の改正とともに、人事制度や働き方の改善や選択肢の拡大に対して、関連する規程の改定や新たな規程の制定を継続的に行っております。2022年度には、下記記載の規程改定を行いました。

制定	内容
制定	新たな規程の制定はありませんでした
改定	プライバシーポリシー改定 育児・介護休業規程改定 内部通報規程改定

資格取得支援制度の活用

働く人のキャリアアップを目的に資格取得支援制度を設けております

勤務するうえで必要となる資格や技能講習や定期的な研修の受講はもちろんのこと、社員全員が安全かつ質の高い業務遂行ができるよう資格取得の支援を行っております。

破碎・リサイクル施設技術管理士	1名	クレーン・デリック運転	2名
産業廃棄物中間処理施設技術管理士	4名	移動式クレーン運転	1名
有機性廃棄物資源化施設技術管理士	1名	クレーン運転業務特別教育(5t未満)	1名
廃棄物管理士	1名	高所作業車運転技能	1名
作業環境測定士	1名	フルハーネス型墜落抑制用器具特別教育	6名
特別管理産業廃棄物管理責任者	3名	一級ボイラー技士	1名
一級管工事施工管理技士	1名	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	1名
職長・安全衛生責任者	3名	第二種電気工事士	1名
安全管理者	1名	自由研削砥石の取替え等の業務に係る特別教育	1名
車両系建設機械運転技能	2名	水質関係第一種公害防止管理者	1名
ガス溶接技能者	2名	有機溶剤取扱業務従事者	1名
アーク溶接作業特別教育	2名	玉掛技能講習	4名
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者	3名	低圧電気取扱業務特別教育	2名
酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育	3名	第1種消防設備点検	1名
ショベルローダー等運転	1名	消防設備士乙種4類	1名
フォークリフト運転	5名	防除作業監督者	1名
		ビジネスキャリア人事・人材開発検定(3級)	1名

安心して働ける環境づくり

ワーク・ライフ・インテグレーション

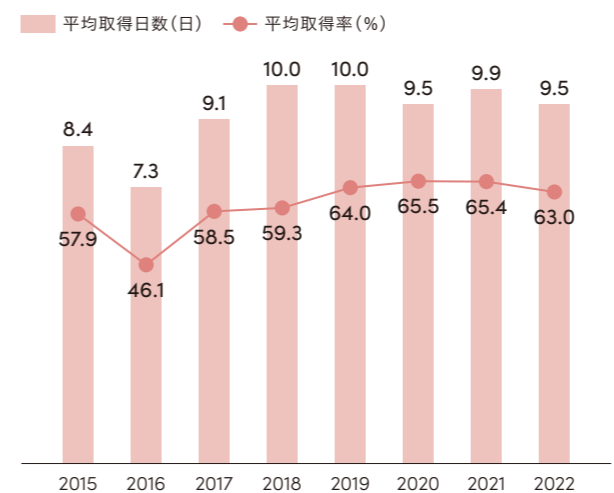
ライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています

当グループでは、性別や年齢などの属性にとらわれることなく、分け隔てのない採用、役員・管理職への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりに努めております。また、2018年度から働き方改革の一環として、勤怠管理システムを当グループで導入しました。同システムの導入により残業時間や有給休暇などの効率的な管理が可能となっています。これにより、従業員本人が自分の勤務状況について確認ができるとともに、上司が部下の残業時間などをリアルタイムで確認・把握できるようになったことで、仕事の割り振りや配分を適宜調整することなどが可能となり、結果的に残業時間の低減につながっています。

また、従業員のワーク・ライフ・インテグレーション(仕

事と生活の融合)の実現を重要テーマと捉え、出産や子育て、家族の看護や介護など、多様なライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています。具体的には、配偶者の出産時に3日間の特別休暇制度を設けているほか、病院の通院や付き添い、子どもの行事への参加に利用しやすいよう、半日単位で有給休暇を取得できるようにしております。また、2020年度は震災や台風・暴風雨などによる災害時に特別休暇を取得できるように就業規則を改定しました。さらに新型コロナウイルス対策のために在宅勤務を実施するとともに、制度の整備を行い、2021年度から正式に在宅勤務制度を導入しております。2022年度は、育児・介護休業法改正に伴い、育児・介護休業規程を改定し、男性社員の育児休業の取得を推進しております。このように環境の変化や働き方の多様化に対応し、従業員の安全安心につながる制度となるよう継続した改善と整備を行っています。

有給休暇取得状況



主な支援制度

制度名	制度の内容	2022年度利用者数/取得比率
産前産後休業制度	出産前および出産後において一定の期間で休業が可能です	1名
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで(最長1歳6か月まで)休業が可能です	6名 男性4名/67% 女性2名/100%
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	0名
定年退職者再雇用制度	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します	0名
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	61名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	59名

社内研修について

各種研修を実施

働きやすく快適な職場環境とするために、様々な研修を実施しております。研修は管理者に向けたものや全従業員に向けたものなど状況や必要に応じた内容を計画しております。2022年度の実施内容についてはP33をご覧ください。

地域社会とともに

地域社会と地球のために貢献できることを追求する企業グループへ



基本的な考え方 グッドホールディングスグループは、事業を通じて社会の持続可能な発展に貢献するとの考えに基づき、地球環境としての課題解決への貢献、地域との共生、地域発展への貢献という観点から社会貢献活動を推進しています。

活動の目標と実績

[活動のテーマ] 社会に安心、信頼される企業づくり

	2022年度目標	2022年度実績	2023年度目標
リヴァックス	<ul style="list-style-type: none"> 安心、信頼される廃棄物処理サービスの追求 世の中の食品ロスを減らす パートナーが安心して働ける職場環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> フードバンク関西への寄付 施設見学の受入 メールマガジンの発行 セミナーの開催 飲酒起因による事故ゼロ パトロールの実施(月1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃活動への参加 献血活動の実施 環境学習施設へ食育関連図書を送付 安心、信頼される廃棄物処理サービスの追求 世の中の食品ロスを減らす パートナーが安心して働ける職場環境づくり
リリーフ	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催 地域清掃活動への参加 献血活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催
ダイキョウクリーン	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃活動への参加 献血活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加
大栄衛生	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃活動への参加 献血活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加
大協	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 社会貢献活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会地域清掃の参加 清掃活動の実施(週1回) サツマイモ苗を寄贈 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動の実施(週1回) 子ども110番の登録 伊丹市高齢者地域見守り協定の登録 3Sパトロールの実施および改善(月1回)
グッドホールディングス	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 慈善団体などへの寄付 サステナビリティレポートの発行 報告書賞への応募 	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティレポートの発行 子ども農業塾に参加 チャイルド・ドリームへの寄付 報告書賞への応募 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 慈善団体などへの寄付 サステナビリティレポートの発行 報告書賞への応募

子ども農業塾の開催

子どもたちの農業体験・学習をサポートしています

子ども農業塾とは、阪神間の中でも豊かな自然が残っている甲山にて、子どもたちが土づくり(落ち葉堆肥づくり)や米づくりなどの体験を通じて、自然の仕組みに関すること、自分たちの生活のことについて学ぶ取り組みです。

食はもちろんのこと、その基となる農業について学び、実際に体験する場を提供することも社会的責任の一つであり、次世代の育成にもつながるとの思いからスポンサー

として主催、運営事務局であるNPO法人子ども環境活動支援協会様と協働で開催しています。

2022年度は小学生のお子さんを持つ家族での参加を対象とし、12組のご家族と一緒に全5回の活動が行われました。

2022年度子ども農業塾1年間スケジュール

- 第1回 田植え・サツマイモの植え付け
- 第2回 田んぼの観察・生き物発見
- 第3回 畑のお世話
- 第4回 稲刈り
- 第5回 サツマイモの収穫・しめ縄作り・修了式



永年勤続者表彰

功績をたたえ、2名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績をたたえ、永年勤続者として表彰しています。

グループ6社
永年勤続者(2022年度)

勤続年数	対象人数
30年	2名
20年	0名
10年	0名
合計	2名



従業員の心とからだの健康管理

安全衛生委員会をグループ全社で行っています

従業員が50人以上の事業場で義務付けられている安全衛生委員会の設置は、株式会社リヴァックス、株式会社大栄衛生および株式会社大協の3社が対象となり、各社で安全衛生委員会を設置し活動しております。また、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーンおよびグッドホールディングス株式会社においては、50人未満の事業場のみで設置義務の対象とはなっておりませんが、2021年度より3社合同での安全衛生委員会を設置し、従業員の安全衛生についての活動を行っております。安全衛生委員会における主な活動は以下の通りです。

- ・ 時間外労働や有給休暇取得状況の共有および対策
- ・ 健康診断の実施状況の確認および推進
- ・ ストレスチェックの実施
- ・ 産業医による面談、フォロー
- ・ 職場巡視および職場環境の改善
- ・ 安全衛生に関わる情報共有

上記の中でストレスチェックの実施状況については右上の表に記載のとおりですが、ストレスチェック後、希望者には産業医による面談指導の実施や、集団的に分析した検査結果をもとに職場環境の改善にも努めています。また、外部相談窓口も設けており、従業員が自分自身のストレス状況に気づききっかけづくりとメンタルケアに寄り添うサポート体制を整えております。さらに、メンタルケア対策として外部専門家によるラインカウンセリングやメール相談窓口を設置し、当グループ全従業員が直接いつでもどこからでも相談できるようにしています。

2022年度の各社ストレスチェック実施概要

大栄衛生 実施期間：2022年11月		大協 実施期間：2022年11月	
対象者	受検者	対象者	受検者
正社員	66名	正社員	35名
嘱託社員	2名	嘱託社員	17名
アルバイト	10名	派遣アルバイト	3名
合計	78名	合計	55名

リヴァックス 実施期間：2022年6月		グッドホールディングス/ リリーフ/ダイキョウクリーン 実施期間：2022年7月	
対象者	受検者	対象者	受検者
正社員	46名	正社員	84名
嘱託社員	1名	嘱託社員	1名
アルバイト	14名	アルバイト	14名
合計	47名	合計	99名

「総合健康リスク」が低い企業として
ストレスフリーカンパニーとして
表彰されました

グッドホールディングス、リリーフ、ダイキョウクリーンのストレスチェックにおいて、2022年度の結果がストレスフリーカンパニーとして認定されました。



アルバイトを含めたグループ全従業員を対象に
健康診断を行っています

産業医による健康診断を年に1回(深夜勤務のある従業員は半年に一回)、実施しているのに加え、希望者を対象にインフルエンザの予防接種を行っています。健康診断の結果がC~E判定など正常参考値を超えた従業員については、産業医に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受け、社員の健康管理に対する意識を高めるとともに、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなどの健康支援に努めています。

採用活動

63名が新たに仲間に加わりました

事業拡大にともなう人員増強として、2022年度は新入社員2名、中途採用者59名が入社いたしました。また、アルバイトの活躍支援にも力を入れており、2022年度は2名のアルバイトを正社員に登用しました。

地域清掃

地域の美化活動に貢献しています

毎年、各事業会社にて自治組織主催の地域清掃に参加しています。2022年度は、鳴尾浜産業団地の自治組織主催の清掃活動に参加し、近隣のごみ拾いと草取り、周辺道路の清掃を行いました。今後も当活動を継続し、地域の美化活動に貢献しています。



サツマイモ苗の寄贈

小学校・幼稚園にサツマイモ苗を寄贈しました

株式会社大協では地域社会への貢献および地域コミュニケーションの一環として、2010年度より伊丹市内の小学校へサツマイモ苗の寄贈を行っています。

子供たちが小学校での栽培活動を通じて環境教育や食育に活用できるようにと始めたこの活動は12年目を迎え、今年小学校16校、幼稚園6園、保育所5校、こども園4園、特別支援学校1校の「合計32施設：2,140苗」を寄贈しました。

なお、この活動はNPO法人こども環境活動支援協会様の農地事業の縮小に伴い、今年度をもって終了となります。12年もの間、活動を支えていただきましてありがとうございました。



廃棄物について学生たちに学びの機会を提供しています

関西大学第一中学校に環境学習を実施しました

未来の消費者に対する教育支援として、地域の教育機関に向け環境教育を行っています。株式会社リヴァックスでは、私たちの生活に身近な「清涼飲料」から環境問題について考えてもらおうと、2008年度から関西大学第一中学校2年生に環境学習を実施しています。7月に行われた環境学習ではリサイクル施設に加え、建設中のバイオガス発電プラントの様子も見学していただきました。



インターンシップの受け入れを行いました

地域に根差した事業活動をおこなっている当グループでは、学生たちに当社の経営理念や事業方針、また実体験を通じて、成長と学びの機会を提供できればと思い、受け入れを実施しています。

2022年は神戸星城高校から2名(2日間)、個人受け入れにより高校生1名(1週間)をグループ会社で受け入れ、実際の作業や営業業務にも携わっていただきました。



企業スポーツ活動

セーリングチームが 関西実業団6連覇を達成しました

当グループでは、2013年にセーリングチームを創部しました。以降、数々の大会で好成績を収め、2018年10月の全日本実業団ヨット選手権では日本一となり、また2016年および2019年には、日本代表として世界大会に出場するなど着実に実績を積み上げています。

2022年は新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となった関西実業団のヨットレースで6連覇という快挙を成し遂げました。



2022年度成績・活動報告

- 7月 関西実業団ヨット選手権 優勝
- 8月 全日本スナイブ級ヨット選手権
山本・桑原ペア 11位
森谷・河野ペア 35位
井堰・竹中(大学生)ペア 48位
- 9月 全日本実業団ヨット選手権 総合8位

図書の寄贈を行いました

リヴァックスが食育関連図書の寄贈をしました

株式会社リヴァックスが、食品ロスを削減するための教育活動の一環として、西宮市内の環境学習施設(3ヶ所)に、食育関連図書の寄贈をしました。

この取り組みは「環境学習都市にのみや・パートナーシッププログラム」の事業として認定されました。



NPO法人への寄付活動

リヴァックスがフードバンク関西へ 収益の一部を寄付しました

株式会社リヴァックスが、2022年7月29日に認定非営利活動法人フードバンク関西(兵庫県神戸市)へ前年度の収益の一部を寄付いたしました。

食品ロスが問題となっている中、廃棄飲料、廃棄食品等をリサイクルすることによりその解決の一翼を担ってきました。本来であればリサイクルをする前にリデュース、リユースされるべきものですが、事業の特性上難しいため収益の一部を食品ロスの解決に取り組む団体の活動資金として寄付をすることにより、貢献をしたいという思いです。

フードバンク関西へは2021年から継続して寄付を行っており、各拠点への配送費等の費用として利用いただいています。

今後も食品ロスを減らす活動に継続的に還元してまいります。

献血活動を行いました

社会貢献活動の一環として 団体献血に取り組んでいます

2022年4月22日、鳴尾浜事業所において献血活動を実施し、当グループ会社従業員受付人数26名(献血人数16名)が参加しました。現在、新型コロナウイルスの影響により全国的に血液の確保が厳しい状態が続いておりますが、少しでもお役に立てれば幸いです。様々な活動を通して社会貢献の輪が少しでも広がるよう、これからも積極的に活動を行なってまいります。



お客様とのコミュニケーション

展示会への出展

多くのお客様とお会いできる機会をつくります

事業内容やCSRの取り組みを知っていただくだけでなく、多くの方々が抱えている現状の課題をお聞きするため、グループ各社がさまざまな展示会に出展しております。

2022年度に出展した主な展示会

開催月	出展会社	名称
7月	リリーフ	賃貸住宅フェア 2022
10月	ダイキョウクリーン	ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO
12月	リヴァックス	メンテナンス・レジリエンスOSAKA 2022



メディア出演・掲載実績

当グループ各社の取り組みを各メディアにて取材、掲載いただいております

掲載媒体名・発行日	取材・出版会社名
メガソーラービジネス 2023年1月25日掲載	株式会社日経BP
神戸新聞NEXT 2023年2月20日掲載	株式会社神戸新聞社
環境新聞 2023年03月15日掲載	株式会社環境新聞社
新エネルギー新聞 2023年3月20日掲載	株式会社新農林社

掲載媒体名・発行日	取材・出版会社名
Next business insights ～ポストSDGs時代を見据えた 途上国ビジネス最新サイト～ 2022年6月17日掲載	アイ・シー・ネット株式会社
中部経済新聞 2022年12月1日号	中部経済新聞社
月刊終活 2023年3月号	株式会社鎌倉新書

セミナーの開催、登壇

啓蒙活動に努めています

当グループでは、お客様や消費者の方が環境や社会問題に対して、関心・知識をもつことが大切と考えております。そのため、各社で定期的な情報を発信するとともに、みなさまが相談できる場を提供しております。

2022年度に開催、登壇したセミナー

開催月	名称/主催
2023年2月	廃棄物管理実務者セミナー
2022年6月	兵庫県バイオマス活用推進大会/兵庫県農林水産部
2022年10月	ひょうご豊かで美しい里海再生シンポジウム/兵庫県(パネリストとして参加)

開催月	名称/主催
2022年10月13日 2023年3月9日	「生前整理のいろは」(神奈川)/株式会社ニチリョク
2022年10月18日	片付けから始める生前整理セミナー /生活協同組合おおさかパルコ
2022年10月22日	第11回はんしん高齢者くらしのフェア /認定NPO法人「はんしん高齢者くらしの相談室」
2022年11月16日	東京福祉会セミナー東京
2022年12月10日	「生前整理のいろは」(埼玉)/株式会社コープサービス
2022年12月21日 2023年2月22日 2023年3月29日	「生前整理のいろは」(東京)/株式会社ニチリョク
2023年1月23日	片付けから始める生前整理セミナー(名古屋) /株式会社ニチリョク
2023年2月16日	「転ばぬ先の生前整理」(埼玉) /青葉ライフサポート株式会社

社長ホットラインの設置

お客様からの大切なお声をダイレクトにお伝えいただけます

お客様のみならず、取引先様からのご意見や気づきを大切なお声として頂戴するために、グループ各社の社長へ直通するメールフォームをグッドホールディングスグループ全社のホームページで公開しております。寄せられたご意見は社長を含めて各部門にて共有し、今後のサービス向上に役立ててまいります。

市民の方々からのメッセージ

市民のみなさんからお手紙をいただきました

コロナ禍においては、地域の方々からたくさんの感謝の手紙やお声がけをいただきました。それらは、感染リスクの不安がある中で私たちにとって大きな励みとなりました。直接手渡しして下さったお手紙やごみ袋に付けて下さったメッセージカードは、作業員がすべて会社に持ち

帰り、全社員で喜びを共有しております。

これからも地域の豊かな暮らしを支える社会インフラとして、誇りを持って事業に取り組んでいきたいと考えております。



消費者課題への取り組み

ウェブカメラの設置

廃棄物処理状況をリアルタイムで公開しています

株式会社リヴァックスの施設内にウェブカメラを設置し、ホームページにてリアルタイムの映像を配信しています。遠隔地からでも廃棄物の搬入状況をご確認いただくことで、廃棄物処理の透明性を実現しています。



廃棄物の搬入・計量場所

契約外廃棄物の混入防止

コンテナに掲示板を設置し、混入防止に努めています

事前に契約したものと異なるものが混入していた場合、適正な処理が難しくなるだけでなく、事故や火災などの原因につながる可能性があります。株式会社リヴァックスでは正しい分別ができていない場合、すみやかにお客様に報告するとともに、設置しているコンテナ箱に掲示板を設置するなど、再発および混入の未然防止に取り組んでいます。

事業継続計画(BCP)の取り組み

BCP災害対策本部を設置しています

当グループでは、大規模地震ならびに大型台風の発生を優先対応リスクの一つとして位置づけ、被害未然防止のために従業員(とその家族を含む)の生命と安全を確保し、『地域社会の早期復旧』と『顧客の事業活動』に貢献すべく、可能な限りすみやかに事業を再開し、継続できるようBCP災害対策本部を設置しています。また、2020年3月には新型コロナウイルス感染症の拡大に対して、従業員の健康・安全の維持と社会的な使命を帯びた事業の継続を担保するために、新型コロナウイルス対策としてBCP災害対策本部を設置し、感染症による事業リスクや防止対策、感染した従業員への休業補償などについて協議、情報共有を行いました。

BCP訓練

2022年7月にBCP訓練を実施しました。台風および震災を想定した初動対応や安否確認を実施しました。

安否確認システム導入

人手に頼らず災害時に確実に従業員(正社員だけでなくアルバイトや派遣社員なども含め)の安否確認を迅速、確実に実施できるように、2020年9月に安否確認システムを導入しました。これにより、短時間での従業員の安否確認と情報伝達が可能となりました。

BCPマニュアル改訂

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、2020年8月にBCPマニュアルに新型コロナウイルス感染症に対する対応マニュアルを追加しました。感染症の予防対策、感染症疑いがある場合、濃厚接触者となった場合、感染した場合などの対応について、初動から具体的な対応内容について記載しております。

グッドホールディングスグループは チャイルド・ドリーム活動を支援しています



Child's Dreamについて

1990年代後半に計画経済から市場経済の道を歩み始めたカンボジア、ベトナム、ラオスなどメコン川流域の国々。「東南アジア諸国連合(ASEAN)」のこれらの国々は、大きく変化する社会・経済環境の中で、確実に発展を遂げています。しかし、一方で地方との格差は急激に拡大しており、経済的不平等や内戦、政情不安などにより複雑な問

題が絡み合い、いまだ深刻な人道危機が発生しています。人権侵害により十分な教育機会が与えられていない子どもたちのために2003年より活動を始めた団体が「Child's Dream」です。子どもたちの医療・教育環境を改善すべくコミュニティとの協働を通して目的を達成することを目標に日々活動に取り組んでいます。

グッドホールディングスグループが支援する理由

当グループでは、「五方よし」を経営理念として売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできる会社をめざしております。

また、社員および従業員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感すること、さらに次世代へ向けて持続可能な社会の構築を目標にさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。社会貢献においては国内のみならず、世界の人々の豊かな社会の実現にも積極的に貢献していきたいという思いがあります。

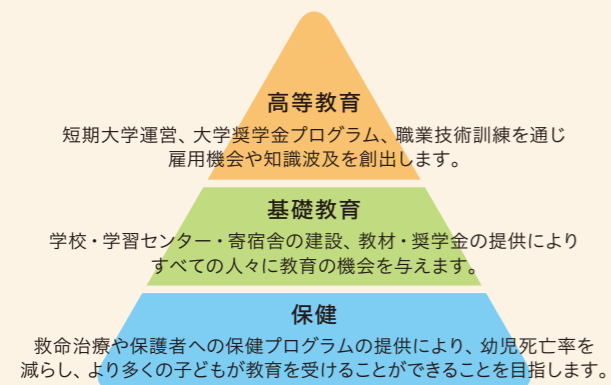
株式会社リーフの「おかたづけサービス」で回収した不用品(家具、日用品など)を海外で再び活かす取り組みを2013年より始めました。これまで東南アジアを中心に活動してきましたが、都市部から離れた地域を訪問するにつれて、さまざまな社会問題や経済格差を目の当たりにしました。

そのような問題の将来的な解決のため教育機会の提供で子どもたち・青少年の自立を支援する「Child's Dream」に共感し、グループ全体の売上の一部を寄付することとしました。

Child's Dreamの活動について

Child's Dreamの活動には「保健」「基礎教育」「高等教育」があります。その中でも教育は、貧困撲滅、持続的経済成長への大きな原動力です。理解力や正しい判断力を鍛え、文化的平和や深い社会のつながりの基盤を構築することができ、所得獲得および質の高い雇用機会を生み出すことができます。

また、多くの子どもたちが健康問題を理由に十分な教育を受けることができない現状にあるため、Child's Dreamでは救命治療や保護者への保健プログラムを提供し、より多くの子どもが教育を受けることができるよう目指しています。



Child's Dreamの活動実績 (2022年時点)

高等教育	9,326名の学生へ職業訓練の指導を提供しました。 769名の学生に大学進学のための奨学金を給付しました。
基礎教育	417校の学校を建設しました。 2,973校の高校および専門学校へ奨学金を給付しました。
保健	6,026名へ薬物防止のための意識啓発を行いました。 7,808名の子どもたちへ健康・衛生教育を提供しました。 2,288名の子どもたちへ救命手術と医療支援を提供しました。

※ミャンマーの政治情勢により一部の受益者数が減少しましたが、奨学金、学校の建物、救命手術を受ける子供たちなどの受益者の数は増加しています。

Child's Dream 創設者より

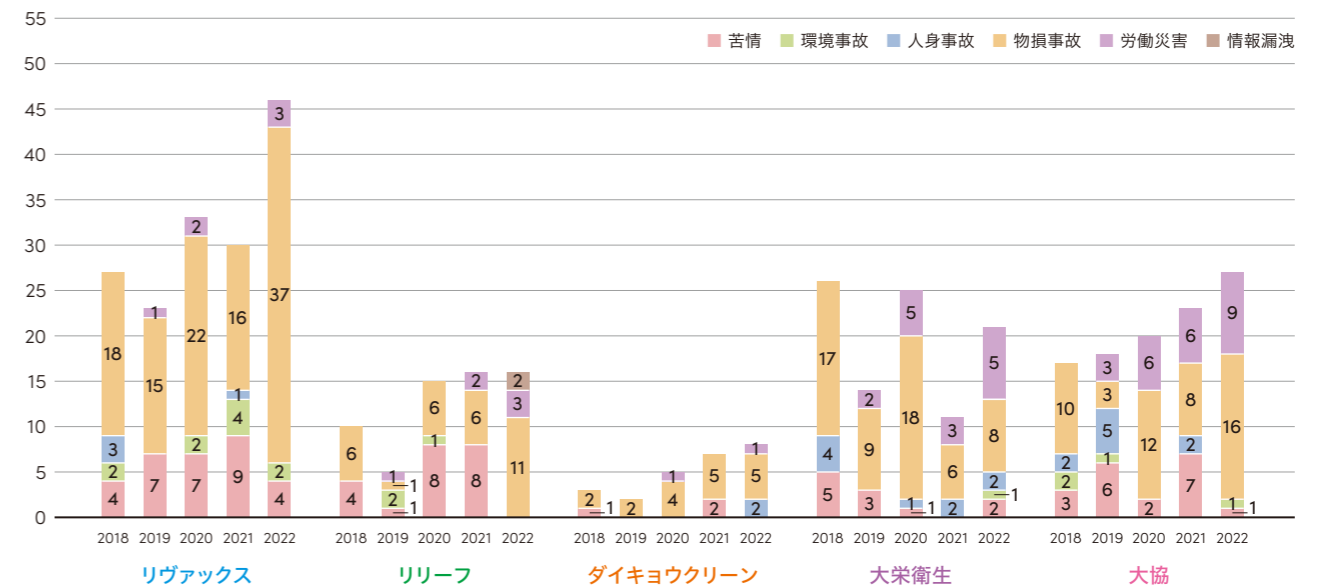


私たちChild's Dreamは、グッドホールディングス株式会社を大切なパートナーとして長年にわたり迎えることができ、非常に嬉しく思います。2022年には多大なご支援のおかげで、ミャンマーの重病の子どもたちの命を救うことができました。現在、新型コロナウイルス感染症の終息に伴いミャンマーとタイの国境が再び再開し、私たちの小児医療基金には援助を求める小児患者が殺到しているため皆様の支援継続は極めて重要な時期にあります。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。感謝を込めて。

Child's Dream 共同創設者 ダニエル・M・ジークフリード / マーク・T・ジェニ

苦情・事故

2022年度の苦情・事故は114件(苦情7件、事故85件、労災22件、情報システム関連3件)で、昨年度87件(苦情26件、事故50件、労災11件)と比較し、増加いたしました。社会にとっても、働く従業員とその家族にとっても安全で安心な企業をめざし、再発防止に努めてまいります。



リヴァックス

※ 2022年度より事故のカウント方法を変更いたしました(ヒヤリハットレベルの物も事故としてカウント)。

件数	内容	原因	対策
苦情4件	隣地企業様より臭気の苦情 ※1	排水処理全体の臭気吸引バランスが取れておらず、調整層内が正圧になり放出された	・排水処理の臭気吸引バランスを調整し臭気漏れをなくした ・日時点検時に調整層内が負圧であることを確認する社内周知をおこなった
	積替保管の荷物の中に動物の骨や肉片等の異物混入があったと連絡を受けた	排出事業者に確認したところ誤って違う荷物を投入していた	荷物は必ず搬入前に確認するよう周知徹底した
	隣地企業様より臭気の苦情 ※1	水処理施設洗殿槽の蓋の閉め忘れがあった	水処理施設洗殿槽の蓋の閉め忘れのないよう社内へ周知した
	顧客施設で指定場所と誤った箇所の汚泥を引き取ってしまい、本来引き取り予定だった施設の汚泥が溢れる寸前の状態であったと連絡を受けた	紙の配車表からホワイトボードへの転記間違い	ホワイトボードの転記をやめ、ドライバーは紙の配車表を見て配車内容を確認するよう周知した
環境事故2件	取引先にて吸引作業中に廃液と一緒に空気を吸いこんだことによりホースが濡れてしまい、吸引車を接続しているホースから裂けて廃液が飛散した	ホースは簡易補修をしていたためまだ使用できると思い込んでしまった	社内に事故内容を周知し、補修手順の改訂を行った
	処分先での排出作業時、曝気を行っている最中にリザーバタンクの回収物が4次キャッチャーからふき出した	泡立ちしやすい廃液であると認識していたが3次キャッチャーの液量を確認せずに曝気作業をおこなってしまった	3次満量センサーを使用し、事前に漏洩防止するよう手順書に項目を追加し社内周知した
物損事故37件	コンテナの入替作業時、荷が入っているコンテナの引き上げをした際、車両のコマとコンテナのレールが乗っていないまま引き上げてしまい脱落した	OJT期間中であり、ドライバーの力量にあった教育内容の実施となっていなかった	項目の追加によりOJTの充実を図る
	10tコンテナ吊り上げ前の位置合わせ時に、フックをぶつけてコンテナに傷がついた	ハンドルの誤操作	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	取引先運搬車両から専用バクタンをリフトで荷下ろしする際、通常通り落ちない様な圧力で爪を広げたら専用バクタンが破損した	専用バクタンの経年劣化および硬化による破損	社内に事故内容を周知し注意を喚起した
	荷下ろし後、クレーンが乗ったパレットを移動しようとした際に鉄板の繋ぎ目部分にパレットをひっかけた(だろろ運搬)	・作業時間ギリギリで焦っていた ・鉄板を修理したばかりで走行に問題ないと思っていた(だろろ運搬)	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	交通渋滞にて相手車両が追越車線に停車していたところに相手車両後方から追突形で衝突した	前方不注意	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
	コンテナ交換場所で、引き上げ後に退出しようとする方向転換した際に、車両の右後方と敷地境界線のアングルに接触した	狭い場内で方向転換する際に左前方を意識しすぎた	安全確認を怠らないよう指導及び周知した

※1 隣地企業様とは、関係が良好であり、「少しでも気になったことがあれば言ってください」という関係の中で、苦情が計上されています。

7tコンテナ車でT字路を左折する際に右側からの直進車両に気づかず、自社車両前方と相手乗用車の助手席後方が接触した	周囲の確認不足	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
引取り場所へ入る順番待ちの際、守衛から合図がありバックしようとしたところ路上ポールと自社車両の左前方のステップを接触させてしまう	・ハンドル操作を誤ったため ・待機時にエンジンを切るように指示を受けたが、50分程車内待機したため軽い熱中症状となっており、瞬間の判断を誤ってしまった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
BSF積み込み後、車両に付着した分を洗い流そうと洗車場に入る際に水道管に接触した	後方確認が十分にできていなかった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
駐車場で駐車時に、後方から来ていた相手方も駐車しようとしていることに気づかず、相手方の車両右側面と自社車両左前方が接触	運転経験不足	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
高速道路を走行中フロントガラスに飛び石が飛んできて、ヒビが入った(前方が対向車からは不明)	前方走行車もしくは対向車が踏んだ石が跳ねたかタイヤの溝に挟まっていた石が外れたと予想される	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
相手側車両が後進駐車時に、停車中だった自社車両に接触	相手側の不注意	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
コンテナ吊り上げ時の操作中に車両が地面勾配により前方に動いていることに気づかず、前に置いてあったコンテナ箱へ接触した	・フットブレーキの踏み込みが甘かった ・周囲の確認を怠った	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
積保ヤードにて汚泥入りのバクカン(再利用プラ製)をフォークリフトで反転排ださせる際、バクカンが滑り土間に落下させた	リフトでの挟み込みが甘く、途中でずれているのに気づかなかつた	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
パワーゲート車荷台へフォークリフトにて空のバクカンを積み込む際、荷台の鉄板部とリフトのマストを接触させてしまった	車両間隔が狭い場所で作業してしまった	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
バクカン(再利用プラ製)に入った破袋後容器をフォークリフトで大型コンテナに積み込んでいる際、リフトの爪からバクカンが滑り落ちてしまいコンテナの中に落としてしまった	・リフトでの操作不備 ・雨でリフトとバクカンが濡れていた	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
破袋後容器を大型コンテナに積み込みし、容器蓋を圧縮する為、フォークリフトにて1mバクカン(再利用プラ製)を使って上から押さえつけていた際、誤ってコンテナ内にバクカンを落下させてしまった	手間を省くため、通常と異なる方法で作業を行った	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
フォークリフトにて鉄製バクカンを移動中に、通路上部にある臭気ダクトの接触警告バーに接触させてしまった	手間を省くため、通常と異なる方法で作業を行った	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
積保ヤード建屋の土間水切り用に制作したフォークリフト取付治具が変形して溶接部分が取れているのを発見した	(申し出がない為状況不明)	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
汚泥入りコンテナ引き上げの際に、コンテナ前方と車両左のデールランプが接触し破損させてしまった	・ハンドル操作と車両とコンテナの位置関係を見誤ったため ・作業していた該社員の経験不足	・該社員のコンテナ車収集作業の認定取り消し ・社内にて事故内容を周知し注意を喚起した
コンテナ車運転中、Uターンしようとしてハンドルを右に切った時に、コンテナ左のハネが開き電柱と接触しハネが大きく曲がってしまった	ロックの確認を忘れていた	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
鉄製バクカンの内側上部2ヶ所変形しているのを発見した	(申し出がない為状況不明)	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
燃え殻小屋の下側面のコンクリート数ヶ所と小屋のフレームが変形破損しているのを発見した	(申し出がない為状況不明)	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
異物小屋内の側面コンクリート部に2ヶ所破損箇所を発見した	(申し出がない為状況不明)	事故内容を社内に周知し注意を喚起した
コンボにて残渣ホッパー内のブリッジ解消作業を行っていた際、コンボのアームが付近にあった塩ビ配管に接触し破損させた	コンボのアーム部分をケーシング上部ギリギリまで下げていたため	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
コンテナ交換作業時、傾斜のある地面にコンテナを設置し、置き場が悪かったため再度引き上げた際に車両のコマにコンテナのレールが乗らず脱落した	車内からコンテナのレールを目視せずサイドミラー越しでのみ確認していた	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
バクカン製の重りをフォークリフトを使用してバックで移動中、高さ制限警告バーを通過する際に重りの底が道路に接触したため咄咄と上昇させたところバーに接触し、二点止めのクランプが外れた	本来とは異なる種類のフォークリフトを使用した	通行ルールを明確にし、現場に侵入危険表示を設置、従業員へ周知した
営業車を運転中、車線規制の道路で他の車両を譲った際に飛び石により自社車両フロントガラスが破損した	道を譲ったため	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
トラック運転中にフロントタイヤがバーストし、バーストしたタイヤによりフェンダーが一部破損	溝の深さやエアアームの確認を行っており、タイヤゴムの劣化や消耗度具合を確認できていなかった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
フォークリフトで後進時、リフトの左前輪のボディがNo.1混合ピットの基礎部分に接触し一部欠損させてしまった	道路上にちりとりが置いてあり、避けるためにハンドル操作を行ったところ接触した	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
フォークリフトで圧縮物を後進移動させる際に、リフト後方がバクカンに接触してしまった	十分なスペースを確保せずに作業をおこなった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
積込場に設置していた10tコンテナを引き上げる際、下に敷いていた鉄板がコンテナ下部に引っ掛かり鉄板がめくれあがった	コンテナを引き上げる際にコンテナの足元を確認せずに吊りあげてしまった	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
大型コンテナのモーターBOXが変形していた	大型コンテナと着脱式コンテナの間が狭く、移動の際に接触した	各コンテナの置き場にラインを引き十分な距離を空ける
水道配管の繋ぎ変えを行う際に止水栓を閉めてから分解しようとしたところ、配管が割れて水が噴出した	配管の経年劣化	事故内容を社内に周知した
吸引作業時に排出場所へ向かう際に前方からきた大型ダンプに道を譲ろうと後進した際、後方にいたバイクに気付かず接触した	道を譲らなければという焦りから後方の確認を怠った	安全確認を怠らないよう指導及び周知した
吸引車を出庫する際に、左隣に駐車中の2tトラックに巻き込み接触した	先に出庫した車両を待たせようと思っ焦って出発してしまい確認を怠った	安全確認を怠らないよう指導及び周知した

熱中症となり作業困難になった	熱中症対策は実施していたが、自身の体調を把握しきれず無理をしてしまった	社内へ事故内容を周知し注意を喚起した
タンク内の特管廃酸(濃硫酸)をバケツリレーにてタンク内から取り出し中に濃硫酸が顔にかかり火傷した	特管廃酸がかからない位置での作業だと判断してしまった	・危険物を扱う作業に関しては面体もしくはフェイスシールドを使用する ・社内周知を行い注意を喚起した
取引先工場施設内部での作業中に壁面に付着していた堆積物(鉄鉱石の粉じん塊)の崩落が起こり、弊社の手配した作業員が下敷きとなった	P19をご確認ください	P19をご確認ください

リリース

件数	内容	原因	対策
1	壁掛けエアコンの室外機を撤去する際に、床に落下し2か所傷をつけてしまった	・エアコン取付ベースとエアコン室内機接続部分の確認不足 ・取り外し作業を1名で行った	・取り外し作業は2名体制で行うようにした ・緩衝材で保護するように指導した
1	顧客宅で家具解体時に、部品が倒れ壁や床に傷をつけてしまった	十分な養生をせず、壁に部品を立てかけていた	部品等は安全な場所に緩衝材などを用いて配置するよう指導した
1	自社敷地内でトラックから荷物を積み下ろす際に、カートが自走し駐車している車両に衝突してしまった	荷物を載せていたカートのロックが十分でなかった	作業時はカートのロックがしっかりかかっているか、安全確認を怠らないよう指導および周知した
1	自社敷地内で車両駐車時に、左ミラーを柱に接触させてしまった	注意不足	安全確認を怠らないよう指導および周知した
1	自社トラックの扉が、顧客敷地の外壁に当たり傷をつけてしまった	注意不足	作業時は周囲の安全確認をしっかりと行うよう周知、徹底した
1	顧客宅の敷地内にトラックで進入した際に、雨の状況によりぬかるんだ地面にタイヤがはまり、地面下の配管を破損させてしまった	・雨による地面の状況を想定できていなかった ・ぬかるみから脱出した際に、周りの状況を把握できていなかった	砂利道や泥道に入る際は道路状況を確認してから進入する
1	大型家具の運び出し作業中に、天井に設置している照明の傘にぶつかり破損させてしまった	注意不足	・搬出を行う前に動線の確認を2名以上で行う ・照明等はあらかじめ外しておくよう事前準備を実施する
1	顧客敷地内駐車場を走行中、上部車高制限バーに気付かず車両上部が接触し、バーの表示板を破損させてしまった	前方注意不足	トラックの高さを再周知し、安全運転を心がけるよう指導した
1	戸建て現場の2階より家具を搬出する際に、手が滑りフローリングに傷をつけてしまった	注意不足	滑りやすい家具や運びにくい家具は、2名体制で搬出を行うよう指導した
1	家具解体中に破片が壁に当たり、養生を突き破りクロスが剥がれてしまった	家具の解体作業を1名で行った	家具の解体は一人でやらず、家具本体に毛布等をかけて解体を行うよう指導した
1	自社敷地内駐車場にて、対向車を避けるため左後方に後進したところ、右側に駐車していた別車両に接触してしまった	補助員をつけずに運転していた	敷地内で車両の後進移動の際には、運転者以外の誘導人員を常に配置する
1	車両運転中の信号待ちで停車時、後続の車両が追突してきた	相手側の注意不足	—
1	車両運転中に後続車より軽度で衝突された	相手側の前方不注意	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
1	作業中突然床が抜け、左手を壁に付こうと手を伸ばした際に勢いそのままガラス戸を突き破ってしまい負傷した	床が劣化しており抜けてしまった	劣化が激しい現場では、床等にコンパネ等で補強し作業にあたる
1	作業依頼書を取引先へ送付する際に、誤ったアドレスへ送付してしまった	確認不足	・作業前後の確認の徹底を指導した ・送付システムについて再指導を行った
1	取引先からの作業依頼書を社内共有しようとしたところ、誤ったアドレスに送信してしまった	確認不足	・送信先への謝罪とメール削除を依頼 ・作業前後の確認の徹底 ・社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した

ダイキョウクリーン

件数	内容	原因	対策
1	交差点で右折矢印信号時に右折した際、対向車線から直進してきた車と衝突した	相手側の信号無視	周りの状況を十分に把握し、突発的なことにも対処できるよう注意する
1	大型トラックの進入を避けるためにバックしたところ後続車へ接触してしまった	後方の安全確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
1	グリストラップの蓋を持ち上げる際、蓋が落下しトラップ管を破損させてしまった	事前説明を受けて2名で注意しながら対応していたが蓋の重さに耐えきれず落下させてしまった	蓋の開け閉め手順を変更し安全確認を怠らないよう指導および周知した
1	グリストラップ清掃中、グリストラップの蓋がずれて蓋の上に乗っていた荷台が傾き、荷台上の小型ビールサーバーが落下し破損させてしまった	蓋に足を乗せた際、蓋と同時に棚がずれてしまったため	蓋の上の物がおり移動させる事が出来ない場合、目視だけでなく、蓋や上にあるものが動かないかを触って確認するよう周知した
1	グリストラップの蓋の上にキャスター付きの食器棚があり、動かした際にガラスが落下し破損させてしまった	安全確認を怠った	・物損が予測される場合、上長もしくは元請け会社の指示を仰ぐように周知した ・店舗の従業員様にグリストラップの上には物を置かないように依頼した
1	雑排槽の蓋を開ける際に体勢を崩し、ガラスに当たって破損させてしまった	足がすべってしまったため	作業スペースを十分に確保してから作業を行うよう指導および周知した
1	顧客敷地内駐車場を後進中、店舗ののぼり旗を破損してしまっ	ミラーで目視できず接触してしまっ	・駐車場などでのバック運転は慎重に行うよう指導した ・複雑な状況の場合一度降りて状況確認の徹底をする
1	バキュームホースを固定する番線を外す際に番線がはねて目に当たった	番線を顔の高さに取り付けていたため	はねても危険性が無い位置で番線を固定するように手順を変更した

大栄衛生

件数	内容	原因	対策
苦情2件	ごみステーションの近くに置いてあった衣類などを、誤ってごみと一緒に回収してしまった	注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	粗大ごみ収集時に廃棄しないエアコンを誤って廃棄してしまった	作業員への伝達不足	社内へ事故内容を周知し、伝達を怠らないよう指導した
環境事故1件	ごみ収集時に塵芥車後より火災が発生していることに気づき、路上にて積荷を排出し消化した	中身入りのスプレー缶が不燃ごみに混入していた ※排出者(住民)の不適切な出し方	スプレー缶の収集時には穴が開いているか確認するよう再度社内周知した
人身事故2件	ごみ収集時、振り向きざまに後方からの歩行者に従業員がぶつかり、転倒させてしまった	全方向への確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	車両運転中、信号の無い交差点に進入したところ、左側からきた原付バイクと出会い頭で接触してしまった	全方向への確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
物損事故8件	車両運転中に停車中の車両の横を通り越す際、相手側ミラーに接触し破損させてしまった	注意不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	車両運転中に左折で敷地内に入る際、巻き込みを意識しすぎたことで右ミラーを壁に接触させてしまった	全方向への確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	車両運転中、左折する際に右側にばかり気を取られてしまい、左側標識に接触してしまった	全方向への確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	ごみ収集時、重たい段ボールを運んでいる際に、手が滑り段ボールが水道パイプにあたり破損させてしまった	全方向への確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	自社駐車場で左折する際に、右後方が膨れたことで右側に駐車中の従業員の車両に接触させてしまう	全方向への確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	車両運転中、交差点手前で右側車線に停車中の車両が急遽左車線へ進路変更をしてきたので急ブレーキをかけたが、間に合わず接触してしまう	相手側の注意不足	社内へ事故内容を周知し車線変更しそうな車両がいる場合は最徐行するよう注意喚起した
	ごみ収集時、マンションのごみステーションに後進で進入する際に入口のシャッターが降りてきているのに気づかず、接触させてしまった	全方向への確認不足	シャッター閉開などリモコン操作の際は助手に安全確認をしてもらう等をするよう指導した
	車両後進中、左後方に気を取られて右後方の縁石に乗り上げて破損させてしまった	全方向への確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
労働災害5件	バイクで退勤する際に、前方車両が停止したため従業員の運転するバイクも停止しようとしたが、タイヤロックがかり転倒してしました	車間距離が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	ごみ収集時に車両の投入口に挟まったごみを取り除こうとしたところ、左手が機械に挟まり負傷した	注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	ごみ収集時に車両との距離を見誤り、投入口に身体をぶつけてしまい負傷した	全方向への確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	ごみ収集時に坂道でボックスを下に降ろした際に、ボックスが倒れた拍子に自身も転倒してしまい負傷した	注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	ごみ収集時に停車車両の前を通過したところ、停車車両が急に前進し衝突、負傷してしました	相手側の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した

大協

件数	内容	原因	対策
苦情1件	市民の方より当社業務車両にあおり運転行為があったと入電があった	ドライブレコーダーで状況確認をおこなったところ該当行為は確認できなかったが、トラック特有の威圧感があったと想定	社内へ入電内容を共有し、スピードの意識だけでなくアクセルを優しく踏むことで威圧感を軽減できると周知した
環境事故1件	ごみ回収時に当社車両の後方に停車していた一般車両にごみの中の柔軟剤が飛散してしました	一般車両が停車していたにもかかわらず、その場を離れてフタを閉めずに回収板を操作してしました	社内へ事故内容とともに作業手順について周知徹底した
物損事故16件	車両走行中、交差点を左折する際に自転車と接触してしました	交差点進入時に安全確認が十分でなかった	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	ごみ収集時に車両から降車するためドアを開けた際、後方から来た自転車と接触し転倒させてしました	周囲の安全確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	車両運転時、路面凍結により車両がスリップし歩行者と助手席側のドアが接触してしました	速度は十分に落としていたがスリップが予想できなかった	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	車両走行中、前方車両が左折する際に一時停止したが気づくのが遅れ、接触してしました	思い込みによる判断の遅れ	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	車両走行中、信号停止していた際に前方の車両が後進し自社車両左側に接触した	相手側の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	車両後進中にマンションのゴミステーション右側の壁に衝突してしました	バックモニターで一点のみを注視しすぎた	・ゴミステーションに対して平行に停車する ・全方向の安全確認を行う
	車両走行中、対向車を避ける際にマンション内の所有物に接触してしました	対向車を意識しすぎたため周囲の安全確認を怠った	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	走行中、対向車を避ける際に左側へ寄りすぎて車両のミラーが壁に接触し、破損させてしました	注意不足	社内および派遣先へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	ごみ回収時に狭路であった為、右前方を注視して運転したが車両左側を個人宅ブロック塀へ接触してしました	全方向への確認不足	・社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した ・該当社員へ特定診断を受講させた
	ごみ回収時、後方から車が来たため助手の誘導のもと後進していたがマンション外壁と車両後部が接触してしました	助手との連携不足および車両後方の確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
ごみ回収時、見通しの悪いカーブを進入している際に対向車が来たため停止しようとしたが砂利道でタイヤが滑りフェンスに衝突してしました	注意していたが最徐行できていなかった	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した	
車両入れ替えのため後進した際に車両左後方を電信柱に接触してしました	周囲の安全確認が不十分だった	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した	
車両運転中、交差点で信号待ちしていたところ後より車両が追突した	相手側の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した	

物損事故16件	直進する後続車に道を譲るため、普段と異なる方向から侵入した際に助手席側のミラーが建物の壁に接触してしました	・通常とは異なる方法で進入してしまい運転が不慣れだった ・周囲の安全確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	ごみ回収時、左折出庫時に車両の右後方がゲートの支柱に接触してしました	周囲の確認不足	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
	車両運転中、狭路で右折する際に車両左側の花壇のレンガに接触してしました	前方にある電信柱を意識しすぎてしまい花壇との距離を見誤ってしました	社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した
労働災害9件	走行中、前方の車両が指示器を出さずに急な車線変更を行ったため、衝突をさけるために急停止したところ滑って転倒した	相手側の注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	ごみ収集中、不燃ごみ内の割れたビンで左手中指を負傷した	不燃ごみにライターが混入していたため取り出そうとしたところビンに気づけなかった	不燃ごみの袋内には危険物が入っていないかよく確認するよう周知した
	ごみ収集後の車両乗り込みの際に目の中に異物が入った	流れ作業になっていたことによる注意不足	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	河川敷の除草作業中に飛び石が目にあたり負傷した	休憩後の作業開始時にゴーグルの装着を忘れていた	社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	産業廃棄物の回収時に一斗缶の口部分で左手親指を切ってしました	注意不足	・安全確認を怠らないよう指導および周知した ・対切創手袋を危険の伴う作業で使用するよう周知した
	重機使用の作業現場で、重機作業範囲内の立入禁止区域外にて待機していたところ、鉄類の中に未破砕のスプレー缶が混入しており、重機タイヤで誤って踏んでしまいスプレー缶が破裂、一部破片が飛んで負傷した	危険予測が十分でなかった	社内および派遣先へ事故内容を周知し、作業手順を変更するとともに注意を喚起した
	除草作業中に飛散防止のネットを持っていたが、刈り機で弾かれ金針が刺さった	危険予測が十分でなかった	・社内へ事故内容を周知し、注意を喚起した ・防護ネットを二重にした
	ごみ積み込作業時に、集積所の鉄扉を閉める際、右手中指を挟み負傷した	注意不足	社内および派遣先へ事故内容を周知し、注意を喚起した
	ごみ収集時に不燃ごみ内の鋭利な破片が刺さり掌を負傷した	・一般車両に道を譲ってもらい道を塞いでしまっていたため焦りがあった ・安全確認が不十分だった	・社内へ事故内容を周知し、安全確認を怠らないよう指導した ・厚手の手袋を配布した
賞賛4件	回収作業員の業務態度についてお褒めのお言葉を頂戴した	—	—
	作業中に自転車が横転し負傷してしましたため近くの病院まで付き添ったところ御礼の電話を頂戴した	—	—
	作業中に具合の悪い年配の男性を介抱し、近隣のかかりつけ医からご家族に電話していただき男性を家に送り届けたところ御礼の電話を頂戴した	—	—
	回収作業員の業務態度についてお褒めのお言葉を頂戴した	—	—

グッドホールディングス

件数	内容	原因	対策
労働災害1件	通勤途中、前方から来る人とぶつかり階段を踏み外し転倒した	手すりをしっかり掴んでいなかった	手すりをしっかり持って、体を支えるように指導した
情報セキュリティ事故(限定的、軽微)2件	NTTひかり回線(電話/ネット)が断線し、翌日まで電話およびネットが不通となった ひかり回線復旧後にUTMの再接続に不具合が起こり、ESETやgoogle関連に接続できなかった	地中配管の破損が原因と推測	対応マニュアルの整備
情報持ち出し1件	退職予定者が自身のUSBに共有フォルダにあるファイルをコピーし持ち帰っていた	従業員への教育不足	・USBを全台読み取り専用にする ・入社時研修で指導 ・定期的な研修で指導

ISO26000対照表

	中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ		中核主題および課題	対応ページ
6.2	組織統治	P03.04.32~36	6.5	環境		6.7.5	持続可能な消費	P05~06.17~21 37~40
6.3	人権		6.5.3	汚染の予防	P20~22.37~40	6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決	P17~30.46~53
6.3.3	デューディリジェンス	P05.06.41~45	6.5.4	持続可能な資源の利用	P20~22.37~40	6.7.7	消費者データ保護およびプライバシー	P32~36
6.3.4	人権に関する危機的状況	P41~45	6.5.5	気候変動の緩和および気候変動への適応	P37~40	6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	P27~29
6.3.5	加担の回避	P33	6.5.6	環境保護、生物多様性、および自然生息地の回復	—	6.7.9	教育および意識向上	P42~44
6.3.6	苦情解決	P33.34.52~56	6.6	公正な事業慣行		6.8	コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展	
6.3.7	差別および社会的弱者	P32~34.43~45.49	6.6.3	汚職防止	P32~36	6.8.3	コミュニティへの参画	P01~06.10.46~50
6.3.8	市民的好および政治的権利	—	6.6.4	責任ある政治的関与	P32~36	6.8.4	教育および文化	P42~44
6.3.9	経済的、社会的および文化的権利	P44.45.51	6.6.5	公正な競争	P32~36	6.8.5	雇用創出および技能開発	P30.44
6.3.10	労働における基本的原則および権利	P43~45.51	6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	P01~06.32~36	6.8.6	技術の開発および技術へのアクセス	P01~04.17~22
6.4	労働慣行		6.6.7	財産権の尊重	—	6.8.7	富および所得の創出	P30.41~45
6.4.3	雇用および雇用関係	P41~45	6.7	消費者課題		6.8.8	健康	P21.22.37~45
6.4.4	労働条件および社会的保護	P41~45	6.7.3	公正なマーケティング、事実上即時の偏りのない情報および公正な契約慣行	P35.36.50	6.8.9	社会的投資	P46~51
6.4.5	社会対話	P41~45	6.7.4	消費者の安全衛生の保護	P17~36.46~50			
6.4.6	労働における安全衛生	P41.42						
6.4.7	職場における人材育成および訓練	P42.43						



捉える、応える、超えていく

グッドホールディングス株式会社

株式会社リヴァックス

株式会社リリーフ

株式会社ダイキョウクリーン

株式会社大栄衛生

株式会社大協

お問い合わせ先

グッドホールディングス株式会社 経営サポート部

〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号

TEL:0798-61-1983 E-mail:csr@goodhd.co.jp

